

皇国地誌編纂過程における地図目録と地図主管の移動

— 東京大学史料編纂所蔵「内務省引継地図」と関連地図目録の検討から —

千葉 真由美

はじめに

東京大学史料編纂所には現在、特殊鬼書のうちに「内務省引継地図」として配架されている地図、全一九六三点がある。これは主に近世から近代にかけて作成または模写された地図九八二点（請求番号〇〇〇一〜〇五五九）の第一群と、明治期に陸地測量部やそれに連なる機関によって作成された九八一点（請求番号〇五六〇〜二九五）の第二群に分けられる。このうちの第一群は、明治政府による統一国家事業の一つである「皇国地誌」編纂事業と関わって収集された地図を多数含んでいる。¹⁾

皇国地誌の編纂は、明治五年（一八七二）一〇月の太政官正院地誌課の設置に始まる。地誌課は編纂に必要な地誌資料と共に地図も多数収集していた。その後明治一〇年（一八七七）一二月に設置された内務省地理局地誌課を経て、明治三三年（一八九〇）九月に、地誌編纂事業が帝国大学地誌編纂掛に移管されると、収集資料の多くが帝国大学に移管された。現在、史料編纂所では地誌課を中心とした内務省諸機関の関係資料を所蔵している。この中には地誌編纂事業過程での収集資料を随時目録化した「地誌目録」や「地図目録」も多い。本稿ではこのうち特に

「地図目録」を中心として、各目録の性格と目録相互の関係を整理し、合わせて地誌編纂事業における地図史料の収集過程を整理する。また地誌編纂事業の移管と共に収集資料も引き継がれるが、その際の地図の移動についても合わせて整理する。

検討史料は、史料編纂所蔵の地図目録のほか、実際に引き継がれた地図を含む「内務省引継地図」、木版刷を中心として個々に配架されている地図も対象とする。また、国立公文書館旧内閣文庫のうちにも地誌課が収集した多くの地図が現存していることから、これらの地図も合わせて検討の対象とした。

なお本稿における地図点数の記載について、本文中および各表において「一点」としたものは、各目録における一項目のこととした。例えば「京都市中実測図 三枚」とあるものを一点と数えている。また各目録については、本文中で史料名と共に括弧内に本稿での目録番号を付記している。

一 地誌課作成の地図目録

史料編纂所蔵の地図目録のうち、太政官正院地誌課から史料編纂所

に至るまでの期間、地誌編纂事業のために収集された地図に関する目録のうち三七点を一覧にしたものが、表1「史料編纂所所蔵地図関係目録一覽」である。関係する地図が含まれている地誌目録、地図の購入など収集過程がわかる史料など、相互の関係が判断可能なものを含み、年代不詳の目録は該当すると考えられるおおよその時期に掲載した。以下、表1をもとに主な目録の記載内容を皇国地誌編纂事業との関わりから述べる。また図1「史料編纂所所蔵地図目録相関図」として表1で掲載した目録を中心に相互の関係を示した。

(1) 太政官正院地誌課期の地誌目録

明治五年(一八七二)九月、明治政府は統一国家事業の一つとして、皇国地誌編集の布告を出し、さらに各府県へ地誌編集に関係する書籍・地図の目録の提出を命じた。⁽²⁾一〇月、皇国地誌編集を担当する部局として、正院外史所管の下に国史編集のために設置された歴史課と並んで地誌課を新設する。この直後に作成されたと考えられる目録が「地誌備用書目」(目録①)である。巻末に「明治五年壬申十一月十三日録完」とあり、表紙には「地誌課印」の印記を持つ印が捺され、「大史局」の用箋を使用した目録である。

内容は「山城志」「山城名蹟志」ほか、各州(旧国名)毎に地誌を記載したもので、地図については「絵図一」から「絵図八」までに分類し、四八四点を記載している。地誌の「山城」の項を「第一函」としているため、目録全体の分類では「第四十六函」とある「絵図一」の「江戸海内外沿海地図三鋪」をはじめとし、続く「第四十七函」の「絵図二」は「諸街折絵図」、この外「丹後国図」など各州毎の国絵図や「京大絵図」「山城図」など各州の図、「地球図」「日本国全図」などの世界図や日本図が記載されている。

「第一函 山城一」の欄外に、「朱点ノ分既ニ採集ス」「△ノ分必ス可採集モノ」との記載があり、それぞれの地誌に朱点および「△」の記号が欄外に付されている。朱点は目録作成時点において既に収集しているもの、「△」は今後必ず収集すべきものという。目録①は正院地誌課を新設した直後の一二月時点において、地誌編纂事業に必要な図書を一通り書き上げたものであったことがわかる。

ところが、府県から提出され地誌課に集められていた資料は、翌明治六年(一八七三)五月五日の皇居の火災によって焼失してしまう。目録①で朱点が付されていた資料は焼失したということになる。そこで政府は五月八日に再び地誌関係書類の提出を命じる。⁽⁴⁾この時期に作成されている目録が、表紙に「明治六年一二月改」と記載のある「採集図書目」(目録②)である。目録①と同様、名所図会ほか地誌を各州毎に記載したもので、地誌編纂事業開始直後に作成された目録は地誌を中心として作成されていたことがわかる。

目録②には「地誌解題所収 朱圜之分ヲ除クノ外悉皆及御引渡候也 明治十一年三月十五日 修史館」と記載された用紙が挿入されている。朱圜を記した図書以外は明治十一年(一八七八)に引き渡したとある。地誌課は内務省に置かれた後、一時、修史局(後、修史館)に合併されるが、明治十一年一月には再び内務省に置かれた。目録②は同年三月に修史館から地理局地誌課へ引き渡した地誌目録でもあるといえよう。

地図についての記載は、明治十三年(一八八〇)などの記載がある「図書局買上貸渡之部」にある。地誌・地図合わせて一六点が記載されている箇所、地図は明治十三年五月付「千葉県治全図」および同年一二月三日付「兵庫県管内図」ほか六点、計八点である。一六点の図書を図書局から借用しているものである。「図書局」とは明治八年(一八七五)九月に、公文編纂、出版許可、納本、翻訳、保存などの事務を行

う内務省図書寮を翌明治九年(一八七六)四月に図書局と改称したものである。明治一三年の時点で、地誌課では内務省図書局より地図を借用していたことがわかる。目録(2)は表紙に記載された「明治六年二月」以後、追加記載されていたものと考えられる。

明治六年一月一日に内務省が設置され、翌明治七年(一八七四)一月九日に内務省に地理寮が新設されると、八月三日には正院地誌課が内務省地理寮に合併されることとなった。地誌編纂に関しては、明治八年六月に「皇国地誌編輯例則并着手方法」が、一月には補遺として「地誌編著例則追補」が示され、郡誌、村誌に記載すべき諸項目の規定と共に、郡、村それぞれの地図を添付する旨が規定されている。

(2) 内務省地理寮地誌課期の地図目録

正院地誌課が内務省地理寮に合併された後、明治八年九月二〇日、地理寮地誌課は正院修史局へ合併される。この時期に作成されたとみられる目録は現在確認できないが、「地図目」(目録(3))は修史事業との関わりを示すものと考えられる。

「武蔵国全図」「正保武蔵国図」に始まり、「長祿江戸図」「慶長江戸図」など多くの江戸図を中心とした六五点を掲載しており、後述の地理局関係目録にみられないものが多い。目録自体、表紙がなく、修史および地誌関係地図を書き留めたというものであったのかもしれない。地図の多くは修史事務を担当していた修史局へ引き継がれたものであろうか。

正院修史局が明治一〇年(一八七七)一月一八日に廃止され、二六日に修史館が置かれると、一月二六日に地誌編纂事務は内務省地理局に移管されることとなる。

(3) 内務省地理局地誌課期の地図目録

明治一一年一月二〇日、内務省地理寮が改称した内務省地理局に地誌課が置かれた。三月一五日には前掲目録(2)が修史館より引き渡されたものと考えられる。

続く五月に作成された目録が「各州地図目録」(目録(4))である。巻頭には「各州地図目録(明治十一年五月調)」と書かれ、「日本地誌提要」⁽⁸⁾「太政官」の用箋を使用している。地図は「山城」以下「大和」「河内」など各州別に分類され、「琉球」「小笠原嶋」「北海道」の後、各州の範囲を超えた広域図などを「内地総国部」として一括している。

例えば「山城」の項には、「山城州大絵図」「京都基点之図」「西京市街実測図」など山城地域に該当する地図を一括し、それぞれの地図に版本、点数、縮尺、袋入、地図作成者ほか、府県からの差出など伝来に関する付記がある。「内地総国部」は「輿地実測大図 伊能忠敬測定三万六千分之一 式百拾四鋪」(以下「伊能大図」)以降、同じく伊能実測図の中図八枚(以下「伊能中図」)、小図三枚(以下「伊能小図」)、ほか「大日本国郡輿地路程全図」「帝国日本郵便線路図」などの広域図である。目録に記載された地図は全部で四七九点である。地誌編纂事務が地理局に置かれた直後ということで、既に収集している地図を書き上げたものと思われるが、この時期以降、地誌関係収集資料の中から地図のみの目録が多く作成されるようになるとみられる。

続く明治一二年(一八七九)には、目録(4)を引き継ぐ内容の地図目録が作成された。「文科大学史誌編纂掛地図目録」(目録(5))である。「日本地誌提要」の用箋を使用している。巻頭には「(明治十二年正月調)」とあり、分類項目が記載され、「五畿内部」「東海道部」「東山道部」「北陸道部」「山陰道部」「山陽道部」「南海道部」「西海道部」「北海道部」「小笠原島部」「内地総国部」「沿海川路部」「海外ノ部」○印一卷袋入

表1 史料編纂所蔵地図関係目録一覧

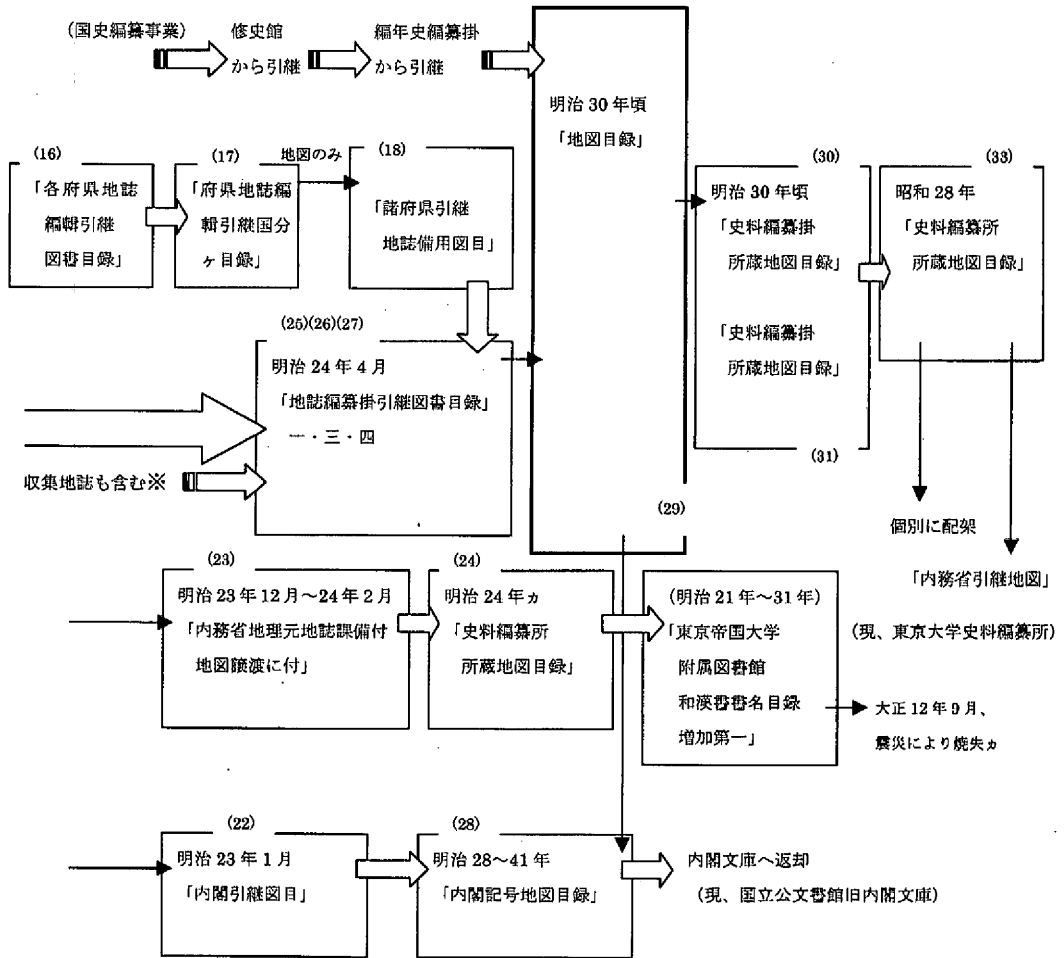
No	年代	史料名	作成機関	用箋	地図点数	分類項目	内容	備考
(1)	明治5年 (1872).11.13録完	地誌備用書目	(大政官正院地誌課)	大史局	484	(「第一函山城」～「第五十三函総図入」のうち)「総図一」～「総図八」	地誌・風土記・紀行・総図などを記載。地誌編纂に必要な図書を書き上げたもの。	「徳川氏地誌備用書目」とあり。「地誌課印」「地誌」印あり。
(2)	明治6年 (1873).12改	採集図書目	地誌課	大政官/日本地誌提要 大政官	8	(「図書局買上貸渡之部」のうち)	名所図会ほか地誌関係資料を「全国総記」ほか各州(旧国名)年に記載。	「修史館」印あり。修史館から地理局地誌課へ引き継いだ図書目録でもある。地図は明治13年付で8点のみを記載。
(3)		地図目	(内務省地理探地誌課)	内務省	65	(なし)	「武蔵国全図」以下、江戸図ほか江戸関係の図65点を掲載。	
(4)	明治11年(1878).5	各州地図目録	(内務省地理局地誌課)	日本地誌提要 大政官	479	「山城」～「北海道」の各州「内地総図之部」	地図のみを記載した目録。	
(5)	明治12年(1879).1調	文科大学史誌編纂掛地図目録	(内務省地理局地誌課)	日本地誌提要	1267	「山城」～「北海道」の各州「内地総図之部」「沿海之部」「川路之部」「海外之部」「摂陽坂府高津宇木堂森幸安模図」「松平乗命献本皇国総図」「伊能美測大図写」「本課製廿一万六千分の一縮図」	上記目録(4)に、新たに収集した地図および図書局から借用している地図を追記。	各地図に内務省図書の番号が記載される。(例)「山城州大総図」→11461
(6)	明治13年 (1880).12編	各府縣 郡村誌図進運表	地理局地誌課			(各府縣・各区ごと)	明治8年(1875)～明治18年(1885)に各府県から進達された誌図を一覧表形式で記載。	表紙に「地理局地誌課」印。内表紙に「地誌備用図籍之記」印、「新見」板井「龍」印あり。
(7)	明治14年(1881).2調	地誌備用書目	(内務省地理局地誌課)	大政官	3	「総図」「畿内」「山城」～「北海道」の各州「行紀」番外「本課編輯書」	地誌目録。地図は「東山道」に「奥州上野路」五本、「信濃」に「水内郡」統興地全図「一旗」の3点。	背表紙裏に「明治十年自二諸品出納 修史館第三局乙科」とあり。
(8)	明治15年(1882).7調	地誌備用書目	(内務省地理局地誌課)	内務省	30	「総図部」「各州部」「山城」～「北海道」の各州「行記部」「国史部」「古文書部」「系譜部」	地誌中心の目録であるが、地図も含まれている。上記目録(7)を引き継ぐもの。	
(9)	明治16年(1883).9	御国絵図現存目録	(内務省地理局地誌課)	内務省	185	「正保理調」「元禄天明調」「年代未詳」	目録(8)中の「天保調査皇国切絵図」とは「正保理」内容の国絵図目録。	「明治16年10月図書局購求、不課保存分」とあり。末尾に購入の金額記載有り。
(10)	明治17年(1884)	図書総合台帳	地理局文書課	内務省	350	「甲 和書」「国史」「雜書」ほか「乙 和書」「新刊目録」「語函面類」「地図」「地図類」「地誌備用書目」として「総図部」「山城」～「北海道」の各州「行記部」「国史部」「古文書部」「系譜部」	記載内容は上記目録(8)のうち一致。地図については「語函面類」「地図」「地図類」のほか「地誌備用書目」の明治十五年七月調のうちにもあり。	「十河」印あり。

No	年代	史料名	作成機関	用途	地図点数	分類項目	内容	備考
(1)	明治18年(1885)~明治23年(1890)	内務省地理局地誌課所蔵 地図目録	地理局地誌課	内務省/太政官	2628	「各州」(山城~北海道)「総国」(海外)「本誌製」(図書局送致)「伊能大図」(天保調査)「正保調査」(並米利加)「森幸安」(松平兼命)「富岡佐々木」(肥前実測)「英版」(水路)	目録(4X5)を引き継ぐもので、地誌編纂過程での作成地図目録としては最も記載が多い。	
(12)	明治18年(1885).6~ 明治21年(1888).6	預收書目	地理局地誌課	草稿用 内務省	350	「天保調測国絵図」ほか	借用・謄写・引継・購入の地誌・古文書・地図などを日付ごとに記載。	表紙に「地理局地誌課」印あり。番号付の地図あり。
(13)	明治19年 (1886).7.20	(地図目録)	地理局典籍掛	内務省	960	(なし)	地理局典籍掛の新見旗山・井上桂吉から総務局宛に出された、図書2056部9332本の6ヶ月間借用願および目録。	全地図に番号付。
(14)	明治20年(1887)頃か	地図目録	(内務省地理局地誌課)	内務省	648	「総国」(畿内)「山城」~「琉球」(の各州)「東海道」(東山道)「北陸道」(山陽道)「山陽道」(西海道)	目録(4X5)に連なるものであり、このうち森幸安関係図および振込図など以外の図を目録化したもの。各州毎に内務省図書番号が付けられているものから記載。	
(15)	明治20年(1887)頃か	地理局編纂誌図総目稿	(内務省地理局地誌課)	草稿用 内務省	15	(なし)	地誌課編纂の「大日本地誌提要」などの地誌、「東京実測全図」などの地図について出版年、発売代などを書き上げたもの。明治8~21年の出版図書。	
(16)		各府県地誌編纂引継図書 目録	(内務省地理局地誌課)	内務省	66	「日本地誌提要」ほか、「大阪府」(埼玉)「宮城県」(青森)「富山県」(大分)「茨城県」(東京)「福島県」(石川)「福井県」(新潟)「栃木県」(秋田)「福岡県」(滋賀)「三重県」(鳥取)「愛媛県」(群馬)「長野県」(千葉)「鹿児島」(長門)「山城」(ほか各州)「雑」	各府県から差出された地誌・地図を書き上げたもの。	
(17)		府県地誌編纂引継書 目録	(内務省地理局地誌課)	内務省	66	「総国」(山城)「雑」	上記の目録を各州別に書き上げたもの。	「地図引継書」(算盤)「コンパス」など諸道具引継の記載もあり。
(18)		諸府県引継地誌備用 目録	(内務省地理局地誌課)	内務省	66	「総国」(大和)「河内」(摂津)「伊勢」(甲斐)「武蔵」(下総)「常陸」(下野)「陸前」(陸奥)「加賀」(越後)「豊後」(豊前)「筑後」	上記目録のうち地図のみを各州別に書き上げたもの。	
(19)	明治20年(1887).3~ 5	諸県郡村誌 目録	(内務省)	内務省		「富山県」(大分)「ほか35府県を記載、外(神奈川県)「長野県」(町村目録)「山形県」(地誌材料書類)の書上	諸調査、村誌下調査、原稿など地誌編纂に必要な調査書類を書き上げたもの。管内図・村図・郡図などの記載あり。長野県は16郡100町村の図面の目録を書上。	朱字で「各府県引継」とあり。

No	年代	史料名	作成機関	用途	地図 点数	分類項目	内容	備考
(20)	明治22年(1889).9	記号図目	(内務省地理局地誌課)	内務省	270	「山城」～「北海道」(の各州)「内地総図之部」「沿海之部」「海外之部」「撰陽坂府高津宇木堂森幸安模図」「皇国総図 松平兼命献本」「伊能実測大図」「正保度調皇国総図」	内務省図書の番号のついた地図を記載。このうち内閣文庫主管の地図には○を付す。	
(21)		地誌備用図目 甲号記号	(内務省地理局地誌課)	草稿用 内務省	75	「総図」「正保度調皇国総図」「森謙齋模範御国総図」「皇国総図 松平兼命献本」「含む」「山城」～「相模」(の各州)「東海道」	内務省図書番号のついた地図のうち畿内・東海・関東地域を記載。ち織内・東海・関東地域を記載。	図書局より送致の図も含む。関係史料の地誌備用書目巴号には「図書課江引継」とある地誌の目録(地図1点記載あり)、および「地誌備用書目丁号」は「博物館」とある内閣文庫図書番号が付された地誌の目録(地図11点記載あり)。
(22)	明治23年(1890).1	内閣引継図目	(内務省地理局地誌課)	草稿用 内務省	250	「山城」～北海道まで他の地図目録にある各州順、「天保度調御国総図」で「山城」～「蝦夷(148点)はか)」	内閣文庫主管の地図を書き上げたもの。「ペン・アトラス」は図番号・内閣号として各番号あり。	図書号と内閣号を共に記載するものあり。
(23)	明治23年(1890).12.18～明治24年(1891).2.9	内務省地理元地誌課備付地図譲渡に付	帝国大学・地理局地誌課・地理局会計課など		221	(なし)	帝国大学より、旧地誌課から図書局へ返却した地図の引き継ぎを要求した書簡および該当地図目録。	
(24)	明治24年(1891).2～カ	史料編纂掛所蔵地図目録	(帝国大学文科大学史誌編纂掛)	帝国大学	221	(なし)	上記の目録の地図を図書局から引き継ぎ新たに目録化したもの。	地図には「京都市中実測図11462」など内務省図書番号あり。
(25)	明治24年(1891).4	地誌編纂掛引継図書目録	(帝国大学文科大学史誌編纂掛)	帝国大学/内務省	732	「内閣記録高記号 地誌備用書目引継完済」「内閣引継未済図書目録 地誌備用書目 引継完済」「地誌備用書目 引継済」「内閣記号図目」「山城」～「北海道」(の各州)「総図」「山城」～「北海」(の各州)「歴史類」「系譜類」「式鑑類」「古文書類」「権」「書目類」「地誌課編纂及校訂書」	地誌および地図目録。「内閣記号図目」として地図を書き上げる。番号付のものあり。	内務省図書の番号が内閣文庫番号に変更される。(例)山城州大総図11461→22764「藤田」「山縣」印などあり。
(26)	明治24年(1891).4	地誌編纂掛引継図書目録	(帝国大学文科大学史誌編纂掛)			地誌目録。	地誌目録。	「藤田」「山縣」印あり。
(27)	明治24年(1891).4	地誌編纂掛引継図書目録	(帝国大学文科大学史誌編纂掛)	編年史編纂掛	189	古文書類・記録類・総図・番外絵図類・郡村図ほか。	地誌および地図目録。目録の地図も含む。	借本目録に明治24.4.14河田熊の記載あり。「藤田」印あり。
(28)	明治28年(1895)～明治41年(1908)	内閣記号地図目録	(帝国大学文科大学史料編纂掛)	史料編纂掛	234	「山城」から各州順に記載。「返附」之分三十七年八月十三日以前分」を別に記載)	内閣文庫主管の借用地図を書き上げたもの。明治24年4月に地誌編纂掛より引継いだ地図で、明治28年～明治41年間の各地図の返却年月日を記載。	(例)「山城州大総図」122764→M37.10.5返却

No.	年代	史料名	作成機関	用途	地図点数	分類項目	内容	備考
(29)	明治30(1897)年頃	地図目録	(東京帝国大 学文科大 学史料編纂掛)	史料編纂掛	1248	〔総国〕畿内「山城～琉球」の各州「東海道」「西海道」「北海道」「朝鮮(外国)」「未定図」	内閣文庫ほかの番号がある図は214点、無号は334点。目録③の地図を含む。	
(30)	明治30(1897)年頃	史料編纂掛所蔵地図目録	(東京帝国大 学文科大 学史料編纂掛)	史料編纂掛	530	〔第一函〕(総国)部「第二～三函」(分縣)部「第四～五函」(雑之部)「第六函」(外国)部・鉄道郵便線路部「別第一函」(総国)部・畿内東海道部・西海道部・琉球南海道部・山陰山陽北海道部・分縣部・雑之部「別第二函」(雑之部)「別第三函」(雑之部)	史料編纂掛で所蔵している地図を新たに分類しなおしたものの。目録③の地図を新たに分類しなおしたものの。	
(31)		史料編纂掛所蔵地図目録	(東京帝国大 学文科大 学史料編纂掛)	史料編纂掛	600	五十音順(ア～ワ)	641～647の旧番号を記載。アの643/1 安房国安房郡図からワの645/73 和歌山管内図]まで。地誌課から帝国大学附属図書館に移管された地図を産田伊人が整理した際の目録カ。記載された地図は大正12年の関東大震災により焼失。各地図についての簡略な備考あり。	表紙に「引継諸地図目録」[共四]とあり。「文科大史料編纂掛」印あり。
(32)	大正7年(1918)頃	旧内務省地誌課引継諸図目録		大日本古 文書史 料編纂 掛	270	〔季隆写請国図〕「山城国ノ部」(以下、旧国名毎に記載)		
(33)	昭和28年(1953)	史料編纂所所蔵地図目録	(東京帝国大 学史料編纂掛)	東京帝国大	630	641～647の旧番号順(番号内は五十音順)	640/1 江戸道中絵図]～647/30 京都府管内略図]まで、外[752/199 迅速測図]などあり。	
(34)		伊能忠敬 実測大図目録		太政官	214	目録①中の「伊能大図」と同じ内容を記載した目録。伊能大図1～214号まで。		
(35)		伊能大図番号		太政官	214	目録①中の「伊能大図」と同じ内容を記載した目録。伊能大図1号～214号まで。		
(36)		肥前国地図残蹟		内務省		目録①中の「肥前実測」を簡略に記載した目録。		
(37)		海軍水路局出版 英版海 図目録 水路局調製海図 目録		草履用 内務省		目録①中の「英版」[水路]の地図を記載した目録。		

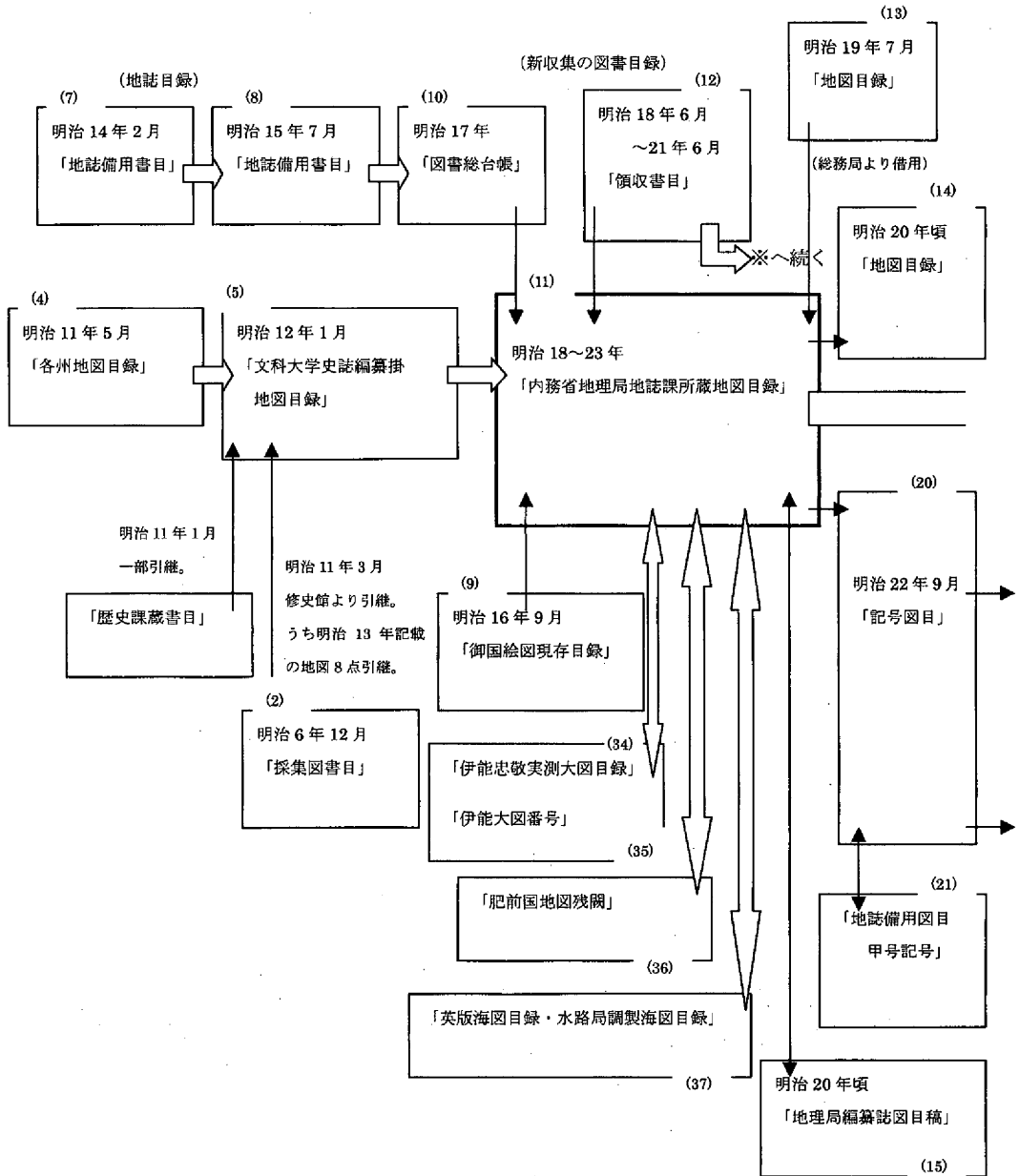
注(1)：本表は相互に関連づけられる目録類を中心に示したものであり、上記37点のみで完結するものではない。
 注(2)：「作成機関」欄は、目録などに記載され、作成機関が明らかでないものを示し、それ以外は当該期の地誌編纂事務担当機関を()で示した。
 注(3)：「分類項目」欄は、主に地図分類について示したが、便宜的に目録全体の分類項目を示したものもある。
 注(4)：「山城」～「北海道」の各州としたものは、外に各州の項目が含まれていることを示す。
 注(5)：地図点数は、抹消・追記などにより概数としたものもある。



注(1)：各種線上の()内の数字は表1の目録Noである。
枠内に、年代・名称を示した。また枠の大きさは便宜的なものである。

注(2)：図中の記号については以下の通りである。
⇨ はほぼ全体を引き継いで記載したもの。
→ は目録中の一部のみを記載したもの。
但し(13)には(20)(21)の一部が記載されているなど、目録によっては関係づけていないものもある。

図1 史料編纂所所蔵地図目録相關図



部」(○は朱書)「朱書張込帳部」「朱書号印」とある。「五畿内之部」などは、地域別に各州をまとめた記載であり、内容は目録(4)と同様「山城」に始まる各州別の記載となっている。目録(4)では「内地総国図」までの分類があったが、目録(5)では新たに、「大日本国沿海略図」「尾勢志海岸実測図」など沿海関係の図を一括して「沿海之部」、「撰河内国井路川筋」「堺県下大和川口図」など河川筋関係の図を一括して「川路部」、「新刊輿地全図」「亜細亞略図」など主に中国や朝鮮を中心とした外国図を一括した「海外之部」が追加されている。地図の点数は六二〇点余ある。この他に「撰陽坂府高津宇木堂森幸安模図」二二三冊、「松平乗命献本 皇国絵図」二二八折、「伊能実測大図写」一七七枚、「本課製廿一万六千分ノ一縮図」の第一号相模国ノ第拾号までの記載があるため、これらを含めると二二〇点余の地図が記載されていることになる。

「撰陽坂府高津宇木堂森幸安模図」二二三冊(以下「森幸安図」とは、寛延、宝暦頃(一七四八〜一七六三)に大坂高津に住み、多数の日本地図を模写、収集した森幸安(号は謹齋)による模写図である。現在、国立公文書館で「日本輿地図」として所蔵されている。二二三冊の図は「皇州緒余撰部 官上京師地図」「愛宕神社地図」「平野郷町地図」「朝鮮輿地図」「万国之図」など、その内容や地域、時代などさまざまで、刊本三冊を除くすべてに、漢文によって考証、按語や識語を詳細に記述している。この図は明治一年に、内務省地理局が購入、同三年(一八九〇)二月に内閣文庫に移管したものである。

「松平乗命献本 皇国絵図」二二八折(以下「松平乗命図」とは、森幸安図と同様に現在国立公文書館において「日本分国絵図」として所蔵されている二二七冊の地図である。「山城国図」などの国絵図や「山城国二条御城絵図」などの城図がある。旧美濃国岩村藩において享保期頃に調製され、同藩主が代々伝えた地図集で、最後の藩主である松平乗

命が京都府に書写を許した後、明治六年に政府の要請に応じて献納したものである。後述の目録(1)にも「松平乗命図 京都府ヨリ差出入」の記載が見られ、明治九年(一八八六)には図書記号が付けられた旨の記載、明治二年(一八八八)に調査された旨の記載がある。その後、明治三年二月に「森幸安図」と同様、内閣文庫に移管された。「森幸安図」「松平乗命図」共、目録(5)では冊数を記載するのみで各図の細目はない。

分類項目にある「朱書張込帳部」とは「大和国奈良市街縮図」などの図に朱書で「張込帳」とあり、該当する各地図に付記されている。また「朱書号印」とは「山城州大絵図 一一四六」¹³⁾などとして朱書で付された五ヶタの番号のことで、以降の地図目録にも記載される「内務省図書」の番号である(「内務省図書」については次章)。

目録(5)は目録(4)の掲載地図に加え、「従京都至大津駅 鉄道線路図」など新たに収集した地図が追加されている。また、明治一年三月十五日に修史館より引き継がれた、前掲目録(2)の「図書局貸渡之部」の地図が、「図書ヨリ預リ」と付記され掲載されている。巻頭に「明治十二年正月調」とあったが、例えば「撰津」の項にある「撰津三津浦之図」には「明治十三年二月原本地質課ヨリ備用贈写」とあり、「下総」の「下総国地理図鏡」には「十五年十二月新置」、「上野」の項の「群馬縣管内上野国全図」は朱書で「明治十八年購求」とあるように、目録(5)は目録(4)を基本として、明治二年以降、図書局より借用している図や新たに収集した図を含めて追記していったものと考えられる。

なお目録(5)の表紙題箋には「文科大学史誌編纂掛地図目録」とあるが、これは明治二四年(一八九一)年三月に地誌編纂事務が文科大学史誌編纂掛へ引き継がれた後に付された表題である。目録中で最も後年の年代記載は明治一八年の付記であるが、後述の目録(1)にある「明治一八年五

月求」と付記された地図は記載されていない。遅くとも目録(1)が作成される以前の時期まで利用されていたものと考えられる。

この後に作成された目録が「内務省地理局地誌課所蔵地図目録」(目録(1))である。記載地図の点数や分類項目など、地誌編纂事務担当機関の地図目録としては最も記載が多く、全二六〇〇点余の地図を記載した目録である。巻頭の目次にあたる部分に「地図標」とあり、「各州」「総国」「海外」「本課製」「図書局送致」「伊能大図」「天保調査」「正保調査」「亜米利加」「森幸安」「松平乗命」「富岡佐々木」「肥前実測」「英版」「水路」の分類がある。各項目の内容は以下の通りである。

「各州」は目録(4)と同様、「山城」から「北海道」までの各州にあたる。このほか「東海道」「東山道」などの項目もあり、各州の範囲を超えた広域図を掲載している。¹⁵⁾「総国」は前掲目録と同様「内地総国」で、これに「沿海部」「川路部」「海外部」が続く。ここまでの地図の点数は一一〇〇点余となる。さらに「本課製」として「本課編製廿一万六千分の一縮図」を「第一号相模国」から「第九号武蔵国」まで記載、続いて「本課編成印刷発売部」として「畿内国」「駿河甲斐伊豆三州図」「相模武蔵二州図」「伊賀伊勢志摩尾張四州図」「校補実測東京全図」「大日本府県分割図」「大日本国全図」「改正北海道全図」の八図を記載している。これらの地図は地誌編纂事業と平行して内務省地理局によって刊行された地図である。¹⁶⁾続いて「洪紙張込部」とあるのは「大和国奈良市街縮図 三万六千分の一」含め三〇点の地図で、これは前掲目録(5)の「張込帳」に当たる地図である。さらに「図書局送致」とあるのは「図書局ヨリ送致部」で、「但朱書該局番号」として六〇〇〇番台・七〇〇〇番台の番号が記載されている。「該局」とは図書局のことで、記載された番号は目録(5)でも既に見られる番号で「摂津大阪府管内七郡一覽 六四九五」以下、全一九点である。

「伊能大図」とは伊能忠敬測量の奥地実測大図のことで、それぞれの地図の詳細を記載したものである。「第一号 蝦夷 シコタン島」「式号 蝦夷 チフカルベツ フルカエツフ ラウシ山 フーニ岬」などある。一号から一〇号までを「一函」として全二〇函までに分けている。¹⁷⁾なおこの部分は「太政官」の用箋を使用している。伊能図については、「北海道」の項の後に「拾枚之内 一三〇六九 伊能中図写 壹号 北海道東部」以下「拾号 日向 大隅 薩摩」と「伊能中図」についての書き上げがあるほか、「明治十五年二月ヨリ着手 同年八月三日成功 伊能大図写 百七拾七枚」として「伊能大図写」について記載がある。「伊能大図写」には「原図壹号ヨリ三十七号マテ除」「図書番号七〇九一」「七〇二九」とある。¹⁸⁾

「天保調査」は「天保調査皇国切図」として、「山城」「大和」ほか各州毎に「対馬」までの七三三の模写図について記載している部分である。「国名」「製図」「書入」「校合」の欄があり、製図、書入、校合には地理局員の姓が記入される。例えば「山城」では製図は石川、書入は上田、校合は「明治九年十月 西盛 松下 鶴田」とある。末尾に製図掛として紳紳、今中義長、寒川輝久ほか全二二名、書入として中島央、白石義定ほか全九名の名が見られる。明治九年一〇月から二月までにかけて模写された図の一覧である。

「正保調査」は「正保度調図目 六拾八枚 七五一八」とあり、「畿内」「東海道」ほか各海道毎さらに各州毎に枚数が記載されている。六八枚は三〇ヶ国分、外三〇ヶ国については「欠」とある。¹⁹⁾

「亜米利加」は「無号 サンフランシスコ図」「壹号 経度從六拾五度至七十四度 緯度從四十度至四十五度 コアストシルルエイ 千八百六十四年」以下、全五三枚の図を記載している。

「森幸安」「松平乗命」については目録(5)にもあった「森幸安図」「松

平乗命図」のことであるが、記載は詳細である。「森幸安図」は「五畿内之内部 甲一」として「山城国」「摂津三郡図」「山城州旧地図」「大坂図」「大坂旧地図」などその細目がそれぞれに記載されている。「松平乗命図」も「山城国図」に「附帝都」「二条城」「伏見城」「淀城」と記載される。

「富岡佐々木」は「富岡佐々木献納図」として「一 摂津大阪町割図」「二 伊賀国図」以下、全六七図が記載されている。「明治六年十一月京都府ヨリ差出ス 富岡佐々木総四郎献納」と付記がある。明治六年献納の「松平乗命図」と同様に京都府が模写し、一月に献納されたものであるうか。

「肥前実測」は「肥前国実測壹万八千分一縮図番号」として、これも「太政官」の用箋を使用している部分である。⁽²⁰⁾「縮写 今中義長」「着色 狩野玉信」ほかの記載があり、各図の模写に関わる地理局員の名が見られる。

「英版」は「英版海岸図目」として明治一一年一〇月二二日付で「改済」とあり、「九百九十一号 根室野附」「二千六百七十二号 渡島箱館」以下全四八点の図を記載している。

「水路」は三つの部に分かれている。「海軍水路局製図銅版目録」に「七十九号 朝鮮京畿道月尾島海峡」以下全一六六図、「海図水路誌目録 十七年一月一日調」に「百五十九号 陸奥鮫泊地附陸中久慈湾」ほか全一四図、同じく海図水路誌目録の「明治一八年一月一日調」に「百十五号 長門国油吾湾」ほか全九七図の記載がある。⁽²¹⁾

目録(1)の最後には「農商務省地質調査所製図目 明治十八年三月ヨリ初テ送致ニナル」として「一 予察目録」「伊豆国」ほか全一八図がある。

以上、目録(1)には地誌課で収集した以外に、地誌課や他局で出版した

地図など、関係する地図を掲載し記述も詳しい。

続いて作成されたと考えられる地図目録は、「地図目録」(目録(4))である。「草稿用」「内務省」の野紙を使用したもので、内容は目録(1)と類似しているが、「小笠原嶋」「北海道」の図は記載されておらず、また「沿海之部」ほか「森幸安図」「張込図」などの図についての記載はない。さらに各項目中に記載されていた森幸安関係の図や張込帳の図についても記載がない。また地図の記載順が、各州別に五桁の内務省図書番号が付されている地図からとなっている。何らかの目的のために、森幸安関係の図や張込図以外の図について、内務省図書の番号の付された図を基準として、新たに目録を作成したものと考えられよう。

以上の目録のうち、内務省地理局地誌課期の(4)(5)(1)の三点の目録は、当該期の地図収集過程を示す地図目録といえる。明治一一年、内務省地理局地誌課となった直後に作成された目録(4)を始めとし、その後地誌課で収集した地図、図書局から借用している地図を含めて、翌年には新たな目録(5)を作成、その後収集地図は飛躍的に増加し、明治一八年から二三年の間に新たに目録(1)を作成したのである。目録(1)では、各州別に収集した地図のみでなく、まとめて伝来・収集した森幸安図や松平乗命図、地誌課で作成・刊行した地図ほかを詳細に掲載することで、当該期において、地理局地誌課が関係する地図の総目録といった性格を持っている。なお、その他の地図関係の目録については表1の内容欄に示した通りである。例えば、明治二〇年(一八八七)頃に作成されたと考えられる「地理局編纂誌図総目稿」(目録(15))は明治八年から明治二十一年の間に「大日本地誌提要」など地誌課が編纂した図書や「東京実測全図」などの地図について、その出版年や発売代価をまとめたものである。また目録(14)のように所蔵地図の一部を記載しようなものもあるなど、目録は地誌編纂事務に必要な形で適宜作成されていたものとみられる。

二 内務省地理局の地図収集過程

(1) 地図の収集過程

内務省地理局地誌課期の地図目録(4)(5)(11)から、地図の収集過程を検討する。

表2「項目別地図点数」は三点の目録中に記載された地図の点数を各項目別に一覧にしたものである。また、三点の目録に記載された内容を含み明治二四年(一八九二)四月に作成された、帝国大学への地誌編纂事業引継に関わるとみられる目録(2)(7)、および帝国大学史料編纂掛(明治二八年(一八九五)四月に設置)期の「地図目録」(目録(29))も対象にした。地理局地誌課期の三点の目録を比較すると各項目毎に順次、収集地図が増加していること、また「東海道」「東山道」など新たな分類もされるなど項目が細分化していることがわかる。帝国大学史料編纂掛期の目録(29)は、修史事業も引き継いでいるため、修史局あるいは修史館で収集した地図も含んでいる。また後述するように、帝国大学移管過程の事情により記載されなかったと見られる地図もあることから、目録(29)では点数が減少している項目がほとんどである。

収集した各項目の地図について示したものが、表3「地誌編纂過程収集地図変遷表」である。表2で示したうち明治一二年(一八七八)の目録(5)、収集地図の最も多い目録(11)、引継目録である明治二四年四月の目録(2)(7)、そして明治三〇年(一八九七)段階の目録(29)について、各地図の記載の有無と、その後の地図の移動、現在の所蔵について簡略に示したものである。紙幅の都合上、すべてを示すことはできないため、「山城」「大和」「武蔵」および「内地総国部」の項について示した。

例えば「山城」の項では、目録(4)で「山城州大絵図」「京都基点之図」「西京市街実測図」ほか六点、計九点の地図が掲載されたのち、翌年の

目録(5)では表3に示したように「從京都至大津駅鉄道線路図」が追記され一〇点となる。この時点で「山城州大絵図」を含む四点の地図に五桁の内務省図書番号が付されている。次の目録(11)では「改正京町絵図細見大成」ほか九点が購入などによって収集、追記されて計二一点の図が記載されている。帝国大学への引継目録(29)では、五桁の番号が変更されていたり、新たに番号が付されている地図が三点確認できる。また別個に移管されている「京都市中実測縮図」「西京禁内之図」「西京切絵図」の三点は記載されていない。続く目録(29)では、地誌課から帝国大学に引き継がれた地図のほか修史館から移管されたとみられる地図が共に記載されている(表ではこれを「外」として地図の一部を示した)。修史館から引き継いだ地図は特に「武蔵」の項で、「南埼玉郡之図」「江戸総絵図」ほか多く見られる。これらの地図のうちには、内閣文庫へ順次返却され、現在、国立公文書館で所蔵が確認できるものがあり、その返却年を「内閣文庫へ」として示した。また大正一二年(一九二三)の関東大震災で焼失したと考えられるものは「焼失カ」とした。

さて、目録(11)の中のみに見られる地図および収集年代は、明治一八年(一八八五)五月から明治一三年(一八九〇)七月までで、購入、新収、引継などの記載が多く見られる。表2でも示したように「内地総国部」の項では、目録(5)のおよそ二倍もの地図が収集されているなど、明治一八年以降、地誌課の資料収集が集中している。これら目録(11)に付記された収集方法について、「○○県差出」「御巡幸之節該県差出」「写本」「模写」「購求」「寄納」などを中心に年代順に並べたものが、表4-1「地図収集過程表(年表)」である。明治六年(一八七三)八月一〇日には「松平乗命図」が京都府から差出され、同年十一月には「富岡佐々木総四郎献納」として六七部の地図が収集された。このほか、明治七年(一八七四)五月には「静岡県ヨリ借用模写」とあるなど各府県から地図が

表2 項目別地図点数

項目	上段:年代、下段:目録番号	M11. 5	M12. 1	M18~23	M24. 4	M30
		(4)	(5)	(11)	(25)(27)	(29)
畿内				1	1	5
山城		9	10	20	5	12
大和		15	15	20	8	12
河内		2	2	4	2	4
和泉		5	5	6	1	3
摂津		19	20	32	20	29
東海道				13	1	2
伊賀		4	4	5	1	3
伊勢		4	4	5	4	8
志摩		1	1	2	0	1
尾張		4	6	9	2	3
三河		5	6	9	4	5
遠江		8	8	10	3	11
駿河		6	6	11	5	10
甲斐		7	9	12	6	24
伊豆		6	5	21	5	17
相模		12	10	17	5	16
武蔵		46	54	87	85	88
安房		4	3	10	2	9
上総		3	2	8	4	9
下総		12	13	24	9	23
常陸		9	9	15	10	14
東山道				26	0	
近江		7	7	10	3	11
美濃		2	3	8	3	7
飛騨		4	4	7	2	4
信濃		13	16	23	10	18
上野		8	9	13	4	3
下野		7	7	14	6	9
磐城		5	5	6	0	
岩代		12	12	12	0	
陸前		7	9	10	7	
陸中		11	11	12	2	
陸奥		5	5	8	4	30
羽前		6	11	18	4	(出羽) 27
羽後		8	11	12	4	
北陸道					0	
若狭		1	1	2	1	2
越前		8	10	12	1	5
加賀		13	14	19	7	12
能登		4	5	5	1	1
越中		7	8	8	3	6
越後		14	15	17	8	13
佐渡		2	2	25	3	8
山陰道				1	0	
丹波		—	—	1	1	2
丹後		3	4	7	2	5
但馬		—	—	3	3	3
因幡		—	—	1	1	3
伯耆		—	—	1	1	2
出雲		3	4	7	2	5
石見		3	3	3	0	1
隠岐		1	1	1	0	1
山陽道				1	0	
播磨		8	9	18	2	12
美作		2	3	4	2	2
備前		4	7	7	1	4
備中		1	3	6	1	4

項目	M11. 5 (4)	M12. 1 (5)	M18~23 (11)	M24. 4 (25/27)	M30 (29)
備後	7	6	8	0	7
安芸	5	6	10	4	7
周防	1	3	5	2	4
長門	—	2	5	2	5
紀伊	4	8	11	5	6
淡路	2	2	3	1	1
阿波	3	4	5	1	2
讃岐	9	9	10	2	7
伊予	6	8	9	4	6
土佐	4	4	4	0	—
西海道			7	0	6
筑前	6	6	11	2	14
筑後	5	6	7	8	8
豊前	3	4	5	2	3
豊後	5	8	9	4	8
肥前	3	4	9	2	6
肥後	5	7	11	0	6
日向	4	6	9	2	5
大隅	—	—	—	0	—
薩摩	2	2	4	2	6
沓岐	2	3	4	0	1
対馬	1	1	2	2	2
琉球	3	4	7	3	5
小笠原嶋	2	2	5	1	
北海道	15	23	76	32	62
内地総国之物	32	74	117	39	47
沿海之物		5	5	2	
川路之物		13	14	0	(未定図) 5
海外之物		20	26	8	(朝鮮・海外) 11
森幸安図		222	222	222	222
松平乗命図		228	227	229	227
伊能実測大図		177	177 (*細目なし)		
伊能中図写			10		
本課製図		9	9		
本課編製印刷発売之物			8		
洗紙張込之物			30		
図書局ヨリ送致之物			28		
伊能大図			214		
天保調査皇国切図			73		
正保度調図目			68	68	68
垂米利加			53		
富岡佐々木献納図			67		
肥前国実測縮図			32		
英版海岸図目			48		
海軍水路局製図銅版目録			166		
海図水路誌目録			101		
農商務省地質調査所製図目			28		
合計(単位:点)	479	1267	2628	921	1248

注(1): 空欄(着色)は目録に項目がないことを示す。例えば目録(4)では「畿内」「東海道」などの分類はない。

注(2): 「—」は項目はあるが、地図が記載されていないことを示す。

注(3): 目録(4)で抹消している図については、重複記載が多いため、原則として重複箇所の数値には入れていない。

注(4): 地図の点数は、地図の枚数そのものではない。

注(5): 「畿内」～「海外之物」における地図1点は枚数そのものではないが、「森幸安図」以下の欄の諸図は枚数を入力している。よって合計値は便宜的なものとなる。

注(6): 目録(27)については、分類がないため、目録(1)に付合する箇所に数値を入力した。

表 3 地誌編纂過程収集地図変遷表 (山城・大和・武蔵・内地総国部)

項目	No	地図名称	上段:年代・中段:地誌編纂事務・下段:目録No		M12-1 内務省地理局 (5)	M18~M23 → M18 (1)	M24 帝国大学 (2)	M30項 → (2)	現在
			年代	地誌編纂事務					
山城	1	山城州大絵図(版本・安永7戊戌正月・1幀)			○11461	○11461	○22764	○22764	M37.10.5内閣文庫へ ○177-0276
	2	京都基点之図(1巻)			○	○	○	○	
	3	西京市街案測繪図(1/18000・1巻)			○	○	○	○	
	4	山城国入都之図 附伏見市中国(1/72000・1巻)			○	○	○	○	
	5	京都市中美測図(1/2000・3枚1袋)			○11462	○11462	○11462	○11462	T12焼失カ 帝国大学へ
	6	西京案内之図(1枚)			○11463	○11463	○11463	○11463	T12焼失カ 帝国大学へ
	7	山城国全図(森謙齋校・1枚)			○(園樂山・普大江)	○	○	○	T12焼失カ
	8	西京切絵図(森謙齋校・1袋)			○11464	○11464	○11464	○11464	
	9	山城国西京伏見廿一万六千分縮図(1枚)			○	○	○	○	
	10	徒京都至大津駅 鉄道線路図(1枚)			○	○	○	○	
	11	改正京明絵図細見大成 洛中洛外町々小名 全(版本・1幀)			○	○	○	○	
	12	京師図(版本・1幀)			○	○	○	○	
	13	元禄版京大絵図(版本・1幀)			○M18.5求	○M18.5求	○36736	○36736	M34.11.13内閣文庫へ M41.4.28内閣文庫へ M37.10.11内閣文庫へ ○177-0508 ○177-0192 ○177-0255
	14	比叡山延暦寺図(版本・1幀)			○M18.5求	○M18.5求	○36737	○36737	
	15	京大絵図(古板・1幀)			○M18.9新取	○	○	○	○内務省引継地図10096カ ○内務省引継地図10004カ
	16	城州伏見城郭図(1枚)			○	○	○	○	
	17	京都府管内図(写・1幀)			○	○	○	○	
	18	兵庫県山城大和河内和泉摂津五ヶ国陰図(徳内三入ル・1)			○36748	○36748	○36748	○36748	M37.10.11内閣文庫へ ○177-0267
	19	京都府管内区分略図(1枚)			○	○	○	○	
	20	北野社繪昔文(1)			○	○	○	○	
大和	1	大和国細見図(版本・享保20卯6月・1幀)			○11465	○11465	○36109	○36109	M38.6.29内閣文庫へ 外、「元禄版京大絵図一折」あり。 ○177-0191
	2	南都図(森謙齋・1枚)			○	○	○	○	
	3	吉野山勝景(1帖1箱) (版・2幀2箱)			○11466	○11466	○22770	○22770	M28.10.1内閣文庫へ M28.10.1内閣文庫へ M37.10.5内閣文庫へ ○177-0509
	4	大和国全図(奈良縣ヨリ出ヌ・1枚・大図)			○11467	○11467	○36112	○36112	
	5	奈良県下改村図(写・1枚袋32枚入)			○	○	○	○	T12焼失カ
	6	奈良県下市街之図(該縣ヨリ出ヌ・写・1枚)			○11468	○11468	○11468	○11468	T12焼失カ
	7	大和国吉野郡図(写・1枚)			○11469	○11469	○11469	○11469	T12焼失カ
	8	大和国全図(森謙齋・写・1枚)			○(園樂山・普大江)	○	○	○	
	9	大和国三本松村図(写・1)			○	○	○	○	
	10	同 大野村図(写・1)			○	○	○	○	
	11	同 白石村図(写・1)			○	○	○	○	
	12	同 上津下津二村改修之図(写・1枚)			○	○	○	○	
	13	大和国奈良市街縮図(1/36000・1)			○(張込帳)	○	○	○	
	14	奈良旧都図(目賀田守藤・1幀)			○11470	○11470	○36103	○36103	M38.6.29内閣文庫へ ○177-0337

項目	No	地図名称	上段：年代・中段：地誌編纂事務、下段：目錄No	M12.1 内務省地理局 (5)	M18~M23 → (1)	M24 帝国大学 (2枚)	M30項 → (2)	現在
	26	横山宿之図(神奈川県出・写・1巻)		○				○：国立公文書館内閣文庫 □：東京大学史料編纂所
	27	寒脚崎玉泉管内全図(板・1幀)		○	○6932			
	28	埼玉県管内略図(御遊幸之前該県出・1)		○			○(掛袋入)	
	29	武蔵葛飾郡埼玉県管轄交換之図(写・1枚)		○				□「内務省引継地図」0013カ
	30	武蔵埼玉郡浦和駅図(ハリコミ・1)		○(張込帳)				□「内務省引継地図」0038
	31	武蔵川越市街図(写・1枚)		○				
	32	武蔵埼玉郡岩槻町図(洋紙写・写・1枚)		○				□「内務省引継地図」0054(2)
	33	同 秩父郡飯石町新道寒脚図(写・1枚)		○				□「内務省引継地図」0037
	34	同 秩父郡図(写・1枚)		○				□「内務省引継地図」0054(1)
	35	同 狭山茶産村々概略図(写・1)		○				
	36	伊能忠敬 東京市街寒脚縮図(1/2000并/36000 共2・写・1巻)		○(1枚子シ)	○11505			↑122號失カ
	37	東京区外之図(写・4枚)		○11505				○≒558-0073カ
	38	横浜港海図(居留洋人製・写・1枚)		○				○177-0640
	39	分間江戸大絵図(元治2乙丑年・版本・版・1幀)		○11506				
	40	東京全図(実測)1/8000 明治11年6月新刻原本・写・1巻)		○(外二箱入1)				
	41	武蔵忍城市図(ハリコミ・1/18000・1)		○(張込帳)				□「内務省引継地図」0015
	42	岩槻市坊縮図(写・1枚)		○				
	43	東京経緯度原図(写・1巻)		○				
	44	新利根川縮図(ハリコミ・1/216000・1)		○(張込帳)				
	45	六郷川口壘台位置之図(ハリコミ・1)		○(張込帳)				
	46	明治東京全図(9年10月出版・1)		○				
	47	元禄二年江戸絵図(版本・版・1幀)		○11508				
	48	享保六年江戸絵図(版・1幀)		○11508				M37.10.11内閣文庫へ M38.6.29内閣文庫へ
	49	江戸切図(板・三拾折)		○				
	50	寛延江戸絵図(板本・版・1幀)		○				
	51	嘉永改正府御領江戸絵図(板本・版・1幀)		○				
	52	文政改正御江戸大絵図(板本・版・1幀)		○				
	53	享和分間江戸大絵図(板本・版・1幀)		○				
	54	元治元 分間江戸大絵図(板本・版・1幀)		○				
	55	慶應改正東京大絵図(板本・版・1幀)		○				
	56	江戸湾御固絵図(写図・写・1幀)		○				
	57	新吉原細見古図(板本・版・1枚)		○				
	58	天保改正御江戸大絵図(板本・版・1幀)		○				
	59	武蔵府中国府台標一覽図(案内書1冊並 版本・版・1枚)		○				
	60	横浜美濃図(地理局出版・版・1幀)		○				
	61	江真本所図鑿(板・1輔)		○				
	62	武州御嶽山之図(板・1枚)		○				

項目 No	上段：年代・中段：地誌編纂事務・下段：目録No 地図名称	M12-1 内務省地理局 (5)	M18~M23 → (1)	M24 帝国大学 (2)	M30項 → (2)	現在 ○：国立公文書館旧内閣文庫 □：東京大学史料編纂所
63	武蔵國中分実測図(1/210000・測量課製・1枚)					
64	東京湾図(1枚)					
65	武州久良岐郡本牧村海岸之図(写・1)	○(15年7月購求)	○			□内務省引継地図[0017(1)]
66	武州藤樹郡羽田村出洲図(写・1枚)	○(15年7月購求)	○			□内務省引継地図[0017(2)]
67	江戸内海深淺測量図(写・共2枚)	○(15年7月購求)	○	○36783		M37.10.11内閣文庫へ ○178-0067
68	東京府内区分絵図(板・1幀)		○	○36782		M37.10.11内閣文庫へ ○177-0636
69	江戸内海測量図(写・1枚)		○	○36784		M37.10.11内閣文庫へ ○178-0033
70	隅田河絵図古跡(板・1枚)		○			
71	校補実測東京全図(2部)	○7620(地誌課備用) ○7622(地誌課備用)	○7620 ○7622	(帝国大学へ)		T12號失カ T12號失カ
72	武蔵国全図(本課製・無号・1枚)		○			
73	秩父郡伊古田村図(写・1枚)		○			□内務省引継地図[0012]
74	秩父郡寺尾村絵図(写・1枚)		○			□内務省引継地図[0016]
75	江戸傍近図(写・1幀)		○	○36785		○177-0690カ □内務省引継地図[0454]
76	武州荏原郡図(写・蜀山自書書入・1幀)		○	○36785		
77	榑賀賀大津村海軍提督府建設場之図(写・1枚)		○	○36862		M37.11.2内閣文庫へ ○177-0663
78	武蔵葛飾郡千葉崎玉管轄交換之図(1)		○	○36110		□内務省引継地図[0013カ]
79	寛文江戸絵図(版・1幀)	○11510	○11510	○36110		
80	往古江戸絵図(板・1幀)	○11509	○11509	○36111		M37.10.5内閣文庫へ ○177-0553
81	芝山内図(写・1枚)		○			
82	実測埼玉県管内全図(無印無号・1)		○			
83	東京実測図(観測課出版・15折)		○			□内務省引継地図[0386(1)~(6)カ]
84	東京図幅(1折)		○			
85	東京図(1/5000・陸軍測量本部陸軍部測量局製・版・1幀・9枚)		○			
86	神奈川県管内図(版・1幀)		○			
87	埼玉県管内之図(写本・実測・1折)		○			
内地総 部						
1	輿地実測大図(伊能忠敬測定/736000・214幅・20幅)	○11651	○11651	○36892		M41.10.21大学図書館へ (T12號失カ)
2	同 中図(伊能忠敬測定/216000・8枚・1幅)	○11652	○11652	○36893		M41.10.21大学図書館へ (T12號失カ)
3	同 小図(伊能忠敬測定/432000・3枚・1幅)	○11653	○11653	○36894		M41.10.21大学図書館へ (T12號失カ)
4	実測日本地圖(伊能氏原本旧開成所製官版・4枚・1箱)	○11654	○11654			
5	縮測天保大図 御国絵図(原本1/6幅圖・本課製・72)	○	○			○(71袋)

項目	上段：年代・中段：地誌編纂事跡・下段：目録No	M12.1 内務省地理局 (5)	M18~M23 → (1)	M24 帝国大学 (6,7)	M30項 → (8)	現在
6	伊能中国图(10枚)	○13069	○13069	(帝国大学~)	T12焼失カ	○：国立公文書館国内閣文庫 □：東京大学史料編纂所
7	大日本国郡輿地路程全図(1編)	○11655	○11655	○22751	M37.10.22内閣文庫~	○177-0241
8	英版日本南北図(2幀)	○9367	○9367	(帝国大学~)	T12焼失カ	—
9	銅鑄日本図(玄々堂製・1箱)	○	○11657	(帝国大学~)	T12焼失カ	—
10	日本縣分図(旧租稅寮本模写・1巻)	○	○	○	M37.11.23内閣文庫~?	—
11	日本府縣分轄圖(写-1号2号共・2)	○	○11658	○36863	○36863	—
12	帝國日本郵便線路之圖(銅版・M9刊・郵便警察版・4)	○	○	(帝国大学~)	T12焼失カ	□[内務省引継地図]0470カ
13	日本郵便線路地圖(写・1)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0470カ
14	西京至大阪鐵道線路圖(写・実測・絹布写・5巻)	○	○	○	○	—
15	五畿内圖(1/216000・本課編製銅版原本・写・1巻)	○	○	○	○	—
16	畿内近傍各邑之圖(1/36000・内治革一・2巻)	○	○	○	○	—
17	山城摂津両国境界圖(淀河至立石・実測/3000・1巻)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0253
18	摂津能勢郡丹波桑田郡国界圖(写・1)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0254
19	富士見十三州輿地全圖(板・1)	○	○11659	○22748	M28.10.18内閣文庫~	○177-0622
20	伊勢志摩両国圖(旧度会県管轄・2)	○	○	(帝国大学~)	T12焼失カ	—
21	伊賀伊勢志摩尾張圖(1/216000・本課編製銅版原本・1)	○	○	○	○	□1047.50.2.4
22	愛知縣下尾張三河圖(1)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0254
23	三河遠江圖(版下写本草稿中二在・1)	○	○	○	○	—
24	駿河甲斐伊豆圖(1)	○	○	○	○	—
25	安房上総下総常陸圖(版下成稿草稿中二在)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0463カ
26	安房上総下総圖(1)・(同上総圖・1)	○11661	○11661	(帝国大学~)	○	□[内務省引継地図]0463カ
27	旧常陸新治縣下区分縮圖(1)	○	○	○	○	—
28	八国接壤圖(版本・1)	○11662	○22771	○22771	M37.10.22内閣文庫~	○177-0534
29	關東川々堤坊圖(写・1)	○	○	○	○	—
30	熊谷縣管轄上野武蔵鳥川境界縮圖(写・1)	○	○11663	(帝国大学~)	T12焼失カ	□[内務省引継地図]0257
31	近江伊賀国界測量圖(但縮写一枚副写・共2折)	○	○	○	○	—
32	上野下野全国草稿(1巻)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0443
33	磐井縣下陸全国圖(1)	○	○	○	○	—
34	秋田縣管轄陸中羽後全圖(御巡幸之節皇宮調進・1)	○	○	○	○	—
35	伯耆因幡隱岐細圖(1巻)	○	○11671	(帝国大学~)	T12焼失カ	—
36	小田縣管轄全圖(備中一丹備後六郡・洋紙・1巻)	○11664	○11664	(帝国大学~)	T12焼失カ	—
37	備後八郡安芸一郡圖(1巻)	○11665	○11665	(帝国大学~)	T12焼失カ	—
38	長防西国圖(1)	○	○	○36859	M37.8.23内閣文庫~	○177-0411
39	西海道全圖(陸軍參謀局製・石版・1)	○	○	○36853	M37.8.23内閣文庫~	○177-0417
40	九州二島圖(1)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0407
41	筑前御笠郡隈村筑後御原郡津古村 国界更定圖(洋紙写・1)	○	○	○	○	□[内務省引継地図]0407
42	薩隅及琉球諸島圖(鹿兒島県・写・1巻)	○11666	○22769	○22769	M30.9.24内閣文庫~	○262-0990

項目	No	地図名称	上段：年代・中段：地誌編纂事務、下段：目録No		M12:1 内務省地理局 (5)	M18→M23 → (1)	M24 帝国大学 (3枚)	M30項 → (9)	現在 ○：国立公文書館旧内閣文庫 □：東京大学史料編纂所	
43		関入州輿地路程全図(被齊酒井喜照・版本・1)			○M1667	○M1667	○22765	○22765	M37.10.22内閣文庫へ	○177-0479
44		大日本全図(本課製・銅版・1枚)			○	○M1668	(帝国大学へ)		T12號失カ	—
45		府県改正大日本全図(関口雁正輯・銅版・1)			○M1669	(帝国大学へ)			T12號失カ	—
46		筑城若代陸前三州図(常州酒井某・版本・1)			○	○			□内務省引継地図]0515	
47		因幡伯耆兩國図(文部省本々課模写・1)			○	○			□1047.90:4二	
48		肥後日向大隅薩摩四州圖(本課製・石版・1)			○M11.8					
49		北陸東海沿道園草稿(御巡幸之節編製宮内省へ 出之稿・1袋)			○					
50		上総下総新古州界圖(1)			○					□内務省引継地図]0435
51		洋版日本全圖(ペーリヤ製・写・1幅)			○M1670	○6783(佛)	○6783(佛)(2枚)		M38.8.22内閣文庫へ	—
52		若狭全圖及越前国教領郡圖(写・1巻)			○				T12號失カ	
53		防長兩國圖(1巻)			○					
54		美濃飛騨二州全圖(写・文部省教育図二摺り模写 ・1)			○M12.4					□内務省引継地図]0214
55		阿波土佐二州全圖(写・文部省教育図二摺り模写 ・1)			○M12.4					□内務省引継地図]0389
56		磐城岩代兩國全圖(福島県蔵版・板・1)			○M12.6	○36860	○36860		M37.11.2内閣文庫へ	○177-0808
57		旧小田原管轄中一丹麓後六部圖(共3枚2袋之内・2巻)			○M1671	(帝国大学へ)			T12號失カ	—
58		日本燈台位置圖(燈台局製・1巻)			○					
59		校正大日本府県管轄圖(地理局測量課石版・1巻)			○					
60		大分県管轄圖(豊後一冊前二郡文部省教育図二摺り模写・1巻)			○					
61		大日本全圖銅版下(9枚入・1巻)			○					
62		薩摩大隈日向三國圖(陸軍參謀局・1)			○M14.3.5木ヨリ到				○カ	
63		長濱鉄道線路圖(江州長浜ヨリ澁州關ヶ原二至 ル・回所ヨリ越前敦賀ニ至ル・1)			○					
64		京都府管内山城全国丹後全国丹波全国五郡略圖(1)			○					□内務省引継地図]0004
65		陸奥出羽輿地全圖(1)			○M18.5購求	○36861	○36861		M37.11.2内閣文庫へ	○177-0811
66		本朝國鑿釋目(貞享4年版本・1)			○M18.5購求	○36864	○36864		M33.2.15内閣文庫へ	○176-0242
67		山城大和河内摂津(写・1)			○M18.5購求					
68		改正東海舟程全圖(天保庚子版本・1)			○M18.5購求					□1047.01-01
69		海瀕舟行園(淡路讃岐伊予土佐阿波・写・1帖)			○M18.5購求	○36885	○36885		M33.2.15内閣文庫へ	○178-0078
70		名所古跡之図(2)			○M18.5購求	○36886	○36886		M37.11.2内閣文庫へ	
71		仙台鎮元様大絵圖(共7枚)			○M18.10購収					
72		九州圖(版・1折)			○M18.10購収					
73		日本海路測量圖(写・1折)			○M18.10購収	○36887	○36887		M37.11.2内閣文庫へ	○178-0050
74		宮城県管内明細圖(1)			○				T12號失カ	—
75		山形県一覽全圖(1)			○				T12號失カ	—

項目 No	地図名称	上段：年代、中段：地誌編纂事務、下段：目録No		M12.1 内務省地理局 (5)	M13-M23 → (1)	M24 帝国大学 (2枚)	M30項 → (2)	現在
76	岐阜県管内図(1)			○				○：国立公文書館旧内閣文庫 □：東京大学史料編纂所
77	兵庫県管内図(1)			○				
78	神奈川県管内図(1)			○				
79	茨城県管内(1)			○				
80	丹波丹後由良川筋日輪見図(1)			○				□内務省引継地図10545
81	日本国界略図(地理局測量課・写・1)			○				
82	千葉県治全図(1)			○				
83	東海道分間絵図(版本・5帖)			○				
84	千葉県治全図(1)			○				
85	御忍幸新治路絵図(草稿・1)			○				
86	大日本府県分轄図(1)			○				
87	安房上総下総国界測図(本課写油紙・1)			○				
88	畿内図(銅版下寫・1)			○				
89	測絵図譜(五分至五分・42枚・2枚・内1枚)			○				
90	同 (二万五千分式・27枚・内1枚)			○				
91	二水合流図(板・1)			○				
92	日本海絵図(写・1)			○				
93	諸山水道絵図 在渡金山(写・2)			○				
94	九州御領所見取絵図(写・1折)			○				
95	堤川除用悪水御普請所村絵図 酒匂川富士川安 倍川大井川大龍川(写・1)			○				
96	從撰州尾崎至長州萩之府(板・1折)			○				
97	大日本国細図(無号・2帖)			○				
98	関東河川巨細図(*抹消)(1)			○				
99	利根川之図(1)			○				
100	大日本帝国郵便区画郵便線路図(1帖)			○				
101	日本鉄道線路図(写・1折)			○				
102	大日本国全図(1帖)			○				
103	日本沿岸区域図(本課編・1折)			○				
104	諸州坡壘図(写・1袋16鋪)			○				
105	郵便線路図(M21.5改正・1綴)			○				
106	奥羽七州并越後河川細図(写・1)			○				
107	所屬未詳雜図(1袋2枚)			○				
108	日本図(写・1枚)			○				
109	測絵図譜(板・1組)			○				
110	大日本国全図(銅板・本課製・1枚)			○				
111	常陸上野下野宮代羽前越後諸山三角実測図(1巻)			○				

		上段：年代、中段：地誌編纂事務、下段：目録No					
項目	No	地図名称	M12.1 内務省地理局 (5)	M18~M23 → (1)	M24 帝国大学 (63枚)	M30頃 → (6)	現在 ○：国立公文書館旧内閣文庫 □：東京大学史料編纂所
	112	日本地質要略図(1)					
	113	地質図説略(地蔵堂學園図・1巻)		○11349	(帝国大学へ)	〒127號失カ	—
	114	山口県管轄圖(吉田晋製図・1)		○			
	115	佐田大博覽会出品大日本全圖(石版・歩合改訂・2枚)		○M21.12			
	116	奥羽各県圖(写板混写・6折1袋)		○			
	117	伊能実測大圖(模写・37号ヨリ214号迄・177枚)		○7091	(帝国大学へ)	〒127號失カ	—
(参考)	1	正保度調圖目(68枚)		○7518	○22742	外、「大日本分國輿地全圖 新測」(7頃)など4点あり。	○176-0286
	2	森幸安圖		○36159	○36159	M26.9.15内閣文庫へ	○177-0001
	3	松平兼命圖	○11689	○36160	○36160	M26.9.15内閣文庫へ	○176-0282

注(1) 各目録に記載されている図は○で示し、そのうち番号が付されているものは番号も入力、()は付記を示した。また収集年代などに関する記載についても原則、記載通りに示した。

注(2) 各項目の地図の順番は目録に記載された順番である。

注(3) 「地図名称」欄には()内に、目録(A)に付記されている縮尺や点数などを記載されている内容を基本に示したが、加筆・訂正については簡略に示した。

注(4) 各欄における「M」は明治を、「T」は大正を示す。

注(5) 「M24帝国大学」欄の「(帝国大学へ)」としたものは目録の表外で譲渡が確認できるものである。

注(6) 同一項目内の重複記載については原則として記載しないこととした。武蔵・内地總国之部共にあるなど別項目の場合は一方にのみ記載した。

注(7) 「現在」欄の数字は請求番号を示す。2003年11月時点において、管見で確認できたもののみを示し、該当図の可能性があるものについては「○○カ」とした。

差出された旨の記載も多く見られる。このうち特に「明治一八年五月購」と付記された地図が最も多く、五七点の地図がある。同年一〇月に購入した地図も一七点あり、明治一八年に収集した地図は九〇点に及んでい⁽²³⁾る。

このほか年代記載はないが地図の収集方法についての記載を一覧にしたものが、表4—2「地図収集過程表(内容)」である。地理局地誌課による「地誌課調」「地誌課製」などの記載や、「陸軍省借模」「文部省原本写」「水路寮原本模写」「開拓使本謄写」「旧租税寮本模写」など他省庁からの借用模写、秋田県庁本の謄写など府県からの収集、また地理局員であり、目録(1)の「天保調査」の項で製図掛としても名前のあつた⁽²⁴⁾榊綿に関係する「榊調」「榊綿寄納」などによって地図が収集されていることがわかる。

(2) 各府県からの地図差出

表4—1の府県からの差出については、明治六年八月一〇日、京都府より差し出された「松平乗命図」に始まり、翌七年五月に静岡県より借用謄写された「三河」の項にある「三河国図」、八年一月二十四日に「度会県ヨリ出ス」とある「伊勢」の項「渡会県管轄全図」などがある。この外にも年代記載はないが府県からの差出を付記したものを含めて表4—3「地図収集過程表(府県より差出)」として示した。〇〇県ヨリ出「該県ヨリ出ス」などの付記のほか、「御巡幸之節該県ヨリ差出ス」との付記もあり、各府県からの地図差出が明治天皇の御巡幸に際して行われたこともわかる。

なお、明治一八年六月以降に新たに収集した地図を書上げた、「領収書目」(目録(12))には、地理局地誌課が各府県から地図を収集している過程が具体的に記載されている部分がある。例えば明治一八年の箇所では

は地誌など二三点を書上げた後、次のようにある。

「右千葉縣引継本図書課ヲ經由シ太政官文書局押印記号済
十一月六日判手

一 千葉縣管内実測全図 内七六一八 一幀
右十一月十日購附領収

「購附領収」とあるように、府県からは差出のみではなく購入という形でも地図を収集していた。

また、各府県から引き継がれた地誌編纂関係資料を書き上げた目録として次の三点の目録が関係付けられる。「各府県地誌編纂引継図書目録」(目録(16))は、各府県別に引継資料を記載したものである。一例として、大阪府からの引継資料として「畿内治河記一冊」を含む三〇点があり、地図はこのうち「市街区分細見図」「大坂陣図」「浪花古図」「平城大内浦坪割図」「浪華古図」「平城旧都図」「大坂全図」「千早城図」の八点が記載されている。これらの資料を各州別に分類したものが「府県地誌編纂引継書国分ケ目録」(目録(17))であり、この目録から地図のみを抜き出したものが「諸府県引継地誌備用図目」(目録(18))である。前掲地図のうち「大和」の項に「平城大内浦坪割図」「平城旧都図」「河内」に「千早城図」、ほか五図が「摂津」の項に記載されている。この三点の目録に記載された地図は、帝国大学史誌編纂掛による前掲目録(9)に記載されるが、ここでは「千早城跡図 大坂」などとして府県名を記載するか、もしくは「地方採集」の記載を付記し、府県引継地図であることを示している。

三 地図主管の移動

地理局地誌課によって収集された資料は、地誌編纂事務の移管や政府組織の改編に伴ってその主管が移動する。以下、主管の移動に関わる目

録によって、地誌課の収集地図が現在の所蔵に至るまでの経緯をまとめ
る。

(1) 内務省図書局主管期—内務省図書局主管地図の借用—

内務省地理局地誌課では地誌編纂に必要な地図を順次収集し目録化し
ていった。しかし地誌編纂に必要な資料は地理局で収集保管していたも
ののみではなく、他部局主管の資料も適宜利用していた。特に内務省全
体の図書を一括保存していた図書局が主管する地図は多く借用していた
ものとみられる。当時の図書局では、内務省の記録・官民の納本・政治
典型風俗の沿革を証する古今の図書あるいは版木、そして毎年各庁から
送付される書目を保存していたという。⁽²⁵⁾ 前掲目録(2)にあったように、明
治一三年(一八八〇)の時点で、既に地理局地誌課は図書局から地誌編
纂に必要な地図を借用していたことが確認できる。内務省図書局ではこ
れらの図書を「内務省図書」として主管しており、地図群もそのうちに
あった。「内務省図書」中に、事務の必要によって実際は地理局保管な
どの形で、それぞれの部局が保管する地図があったと考えられる。⁽²⁶⁾

現在、国立公文書館旧内閣文庫所蔵の地図には「内務省図書」のラベ
ルが付された地図が散見する。例えば前掲「山城州大絵図」には「内務
省図書」のラベルに「甲一四六一」とある。この五桁の番号は目録(5)
以降に見られた地図の番号と一致し、五桁の番号を持つ地図は図書局主
管の地図と考えられる。さらに地図には「内務省文庫印」の印文を持つ
蔵書印が捺されている。⁽²⁸⁾

また、明治十九年(一八八六)七月二〇日付の地図目録(目録(13))で
は図書惣計二〇五六部九三三本について、「右取調之為六ヶ月間致借
用候尤御入用之節ハ速可及返還候也」とあり、差出は地理局典籍掛の新
見旗山と井上銚吉、宛所は「総務局御中」とある。内務省図書局は明治

一八年六月に廃止された後、内閣制度創始に伴って「総務局」となっ
ていた。⁽²⁹⁾ これに伴い、地理局では改めて総務局宛借用願を出したと考えら
れる。目録(13)には、もともと図書局から借用していた「山城州大絵図」
以下の「内務省図書」が書き上げられている。

(2) 内閣文庫主管期—内務省図書の分散—

明治一八年(一八八五)、内閣制度創始に伴い行政組織改革が行われ
る中で、内閣文庫が同年一二月に創設された。内閣文庫は従来の太政官
文庫を改称したもので、明治一九年から一二年(一八八八)の間に、各
省庁からの納本が行われた。⁽³⁰⁾ これに伴い、内務省図書局が主管していた
「内務省図書」のうちで内閣主管となる図書ができ、地図についても同
様であった。明治二二年(一八八九)九月の記載がある「記号図目」
(目録(20)) 以下の記述が見られる。「○点之分 廿二年九月圖書課記
号ノ分ノミ万書出旨、同課ヨリ依頼之節、追テ内閣江可引継明治五年已
前二係ル出版等ノモノハ、圖書記号有之テモ書出ニ不及旨、属鈴木安襄
ヨリ説有之ニ付、即チ○点ヲ施シ相除キ候事」(読点は筆者、以下同)
とある。明治二二年九月、圖書課の番号が付されている図について書き
出すようにと内閣記録局図書課より依頼があった。⁽³¹⁾ このうち内閣へ引継
ぐものは明治五年以前の図であり図書番号があっても書き出さなくてよ
いと鈴木安襄が言ったため、該当する図に○点を付したというのである。
図書課では地理局へ貸出中の図書を把握する必要があるとみて書上げさ
せたのだろう。その際内閣主管の図書については必要なしとし、図書局
主管の図書のみを必要とした。目録(20)に記載された地図はすべて図書局
主管の番号が付いている。このうち地誌課で保管していた図書局主管地
図のうち、明治五年以前のものには内閣文庫主管となるため、○を付けて
区分したのである。目録にある点数は全二八八点、○の付された地図は

表4-1 地図収集過程表(年表)

年	月	日	収集方法	地図名称	項目	点数		
明治5(1872)	春		成	「讃岐地図」	讃岐	1		
			刻成	「大阪区分町名図」	摂津	1		
6(1873)	8	10	京都府ヨリ差出ス	「松平乗命図」				
		11	内史模本	「台湾清国属地図」	海外	1		
		11	富岡佐々木総四郎献納(67部)					
		12	鉄道寮模本	「従新橋至横浜鉄道線路図」	武蔵	1		
		12	正院内史蔵本模写	「朝鮮国之図」	海外	1		
7(1874)	5		静岡県ヨリ借用謄写	「三河国図」	三河	1		
		6	編輯係ヨリ受取	「大阪城中旧建家坪」	摂津	1		
		7	大阪丸ヲ以テ水路寮士官測量図草稿	「千島捉図」	北海道	1		
		10 2	目賀田守蔵寄納	「エトロフ島之図」	北海道	1		
8(1875)	10		(地誌課模写)再模	「下野国渡良瀬川実測縮図」	川路	1		
		11 24	渡会県ヨリ出ス	「度会県管轄全図」	伊勢	1		
9(1876)	3		東京府調模写	「東京市街全図」	武蔵	1		
			大阪府出ス	「大阪府管轄摂津七郡測量図」	摂津	1		
		10	出版	「明治東京全図」	武蔵	1		
10(1877)	2	19	千葉県出ス	「安房国錦山北條村図」(安房)ほか	安房・上総・下総	3		
		3 12	渡会県ヨリ出ス	「伊勢市街図」(伊勢)ほか	伊勢・志摩	2		
		5 16	本課照会ニ依リ送付	「滋賀県管内実測図」	近江	1		
		12 20	両総国界測量縮図着手		浪紙張込			
11(1878)	4	10	図書局ヨリ送附	「阿波郡分図」	阿波	1		
		6	両総国界測量縮図卒業ス		浪紙張込			
		6	新刻原本	「東京全図」	武蔵	1		
		8	御巡幸之節編製官内省へ出ス稿	「北陸東海沿道図草稿」	内地総国之部	1		
12(1879)	4		文部省教育図ニ拠リ模写	「美濃飛騨二州全図」ほか	内地総国之部	2		
		5 11	図書ヨリ送致	「越後図」	越後	1		
		6	福島県蔵版	「磐城岩代両国全図」	内地総国之部	1		
13(1880)	2		原本地質課ヨリ借用謄写	「摂津三津浦之図」ほか	摂津	2		
		2	高橋不二雄寄納	「上野館林領五郡農家水配鑑」	上野	1		
14(1881)	3	5	本局ヨリ致 陸軍参謀局	「薩摩大隅日向三国図」	内地総国之部	1		
15(1882)	1		福井県所進	「越前国敦賀市街全図」	越前	1		
		2 10	写着手	「伊能大図」				
		8 3	写成功	「伊能大図」				
		9	河井庫太郎寄納	「朝鮮国全図」	海外	1		
		12	新置	「下総国地理図鏡」	下総	1		
16(1883)	夏		吉田晋寄納	「北海道沿海図」	北海道	1		
			桜井地理局長巡回北海道所(庁)採集令付当課保存之	「北海道諸図」(全22鋪)	北海道	1		
		1	模写	「備中国全図」	備中	1		
		1	札幌県ヨリ回送	「札幌県管下国郡界図」	北海道	1		
		5	職員ヨリ送致	「大分県管内全図」	豊後	1		
17(1884)	11	27	職員掛ヨリ廻付当課ニ保存ス	「津軽土佐守蝦夷地拜領区域図」	北海道	1		
			内務省取調局ヨリ借模	「琉球群島図」	琉球	1		
		1	分郡廻議原図ニ拠テ調製ス	「日向白杵那珂諸県分郡図」	日向	1		
		3 18	職員掛ヨリ送致	「ヤンケシリ島図」ほか	北海道	4		
18(1885)	4	16	求	「十勝国十勝川之図」ほか	北海道	24		
		1 1	海図水路誌目録 調	「日本北海道全岸」ほか	三河	2		
		3	農商務省地質調査所製図目3月ヨリ送致ニナル					
		5	求・購求・購収	「改正京町絵図細見大成」(山城)ほか	山城・伊賀・駿河・相模・武蔵・上総・近江・美濃・信濃・下野・羽前・若狭・加賀・越後・佐渡・丹波・丹後・但馬・播磨・備後・紀伊・肥後・北海道・内地総国之部	57		
		5 28	(高橋不二雄、北海道出張出発ノ節書留持参ノ事)	「東西蝦夷山川地理取調図」ほか	北海道	11		
		8 26	職員掛所交付	「宮崎県管内全図」	日向	1		
		9	新収	「京大絵図」(山城)	山城・琉球	2		
		10	購・購収	「摂州大坂大絵図」(摂津)ほか	三河・駿河・甲斐・武蔵・丹後・安芸・肥前・琉球・内地総国之部	17		
		19(1886)			地質局持参	「東京図幅」	武蔵	1
					地質局板	「静岡図幅」(駿河)ほか	駿河・下総	2

年	月	日	収集方法	地図名称	項目	点数
			千葉県巡回渡邊一等属採集写本	「下総国東葛飾郡沿浦地図」	下総	1
	1		高橋不二雄北海道ニテ採集	「釧路国硫黄山図」	北海道	1
	3			「豆科下田温泉名所記」(伊豆)ほか	伊豆・播磨	3
	3		購	「武州荏原郡図」(武蔵)ほか	武蔵・常陸・信濃・佐渡・出雲・内地総国之物	7
	5		簿書掛引継	「豆科天城山之図」(伊豆)ほか	伊豆・武蔵・丹後	3
	5		簿書掛備中ヨリ課印アルモノ発見	「実測埼玉県管内地図」	武蔵	1
	6		図書記号	「松平乗命図」		
	7	17		「朝鮮西岸漢江近海」ほか	海軍水路局製図銅版目録	
20(1887)	1		局長書記ヨリ交付	「宮崎県管内全図」	日向	1
	3	24	局長命保存	「大坂近傍図」(摂津)ほか	摂津・武蔵	2
	4		図書課ヨリ送付	「宮崎県管内全図」	日向	1
	6	1	局長書記ヨリ保存ノ依頼ヲ承ク	「日本沖繩宮古島八重山附屬地質見取図」	琉球	1
21(1888)	5		改正	「郵便線路図」	内地総国之物	1
	11	2	調査	「松平乗命図」		
	12		歩合改訂	「明治廿二年仏国大博覧会出品大日本全図」	内地総国之物	1
22(1889)	12		書記貸付ノモノ返却シ地誌備用トス	「青森県管内全図」	陸奥	1
23(1890)	1		不見→発見	「福岡県管内旧大区図」ほか	筑前	3
	1		送致(観測課調製)	「小笠原嶋全嶋図」	小笠原島	1
	7		返納	「石川県管内地図」	加賀	1

注(1): 目録①のうち、年代が記載された事項を一覧にしたもの。収集過程に関するものが中心で、出版などについては入力していないものもある。 注(2): 「収集方法」欄は原則、目録①の記載通りに掲載した。

表4-2 地図収集過程表(内容)

内容区分	内容細目	地図名称	項目	点数	
地誌課	地誌課調	「畿内図」	畿内総図	1	
	地理局出版	「横浜実測図」	武蔵	1	
	地理寮測定地誌課模写	「下野諸山位置」	下野	1	
	本課編製銅版原本	「五畿内図」ほか	内地総国之物	2	
	(内務省) 内務省ヨリ借用写	「小笠原島誌附図」	伊豆	1	
他部局	駅通寮 駅通寮蔵版(M9.1刊行)	「帝国日本郵便線路之図」	内地総国之物	1	
	大蔵府 大蔵府傳致	「琉球諸島図」	琉球	1	
	海軍省 海軍省製	「尾勢志海岸図」	沿海	1	
	開拓使	原図開拓使本	「三角術測量北海道図」ほか	北海道	2
		開拓使本謄写	「札幌県下石狩川測量図」	北海道	1
		開拓使調	「北海道実測図」	北海道	1
	観測課	観測課調製	「小笠原島全嶋図」ほか	伊豆	4
		観測課出版	「東京実測図」	武蔵	1
	正院記録課	正院記録課傳致	「米良図」	日向	1
	正院庶務課	正院庶務課本借模	「五稜郭図」	北海道	1
	書籍館	書籍館在印地誌課ニテ保存ス	「朝鮮国之図」	海外	1
	水路寮	水路寮原本借模	「琉球図」	琉球	1
	測量課	測量課製	「武蔵国中分実測図」	武蔵	1
		地理局測量課	「日本国略図」ほか	内地総国之物	2
	租税寮	租税寮本備置	「奥羽川々分国図」	東山道(川路にもあり)	1
旧租税寮本模写		「日本県分図」	内地総国之物	1	
燈台局 燈台局製		「日本燈台位置図」	内地総国之物	1	
土木寮	土木寮縮写	「利根川実測図」ほか	川路	3	
	博物館 博物館本々課模写	「日光山近傍見取図」	下野	1	
文部省	文部省本本課模写	「因幡伯耆兩國之図」ほか	山陰総図(出雲・内地総国之物にもあり)	2	
	原本文部省	「肥後国学校位置図」	肥後	1	
	文部省教育図ニ拠リ模写	「大分県管轄図」	内地総国之物	1	
	陸軍省 陸軍省本借模	「佐倉旧城之図」	下総	1	
陸軍省	原本陸軍省測量図	「高崎城図」	上野	1	
	陸軍省製	「朝鮮全国図」	海外	1	
量地課	量地課製縮写	「信濃川口実測図」	越後	1	
府県関係	以秋田県庁本 本課謄写	「八郎湯図」	羽後	1	
	茨城県出版 河井庫太郎置	「茨城県管内全図」	常陸	1	
	原熊本県出本課製	「豊後大分海部直入郡測量分見図」	豊後	1	
	福島県蔵版	「磐城岩代兩國全図」	内地総国之物	1	
	宮城県地理課	「宮城県下仙台区全図」	陸前	1	
個人納本及び地理局関係	榊調	「相模国草稿」	相模	1	
	榊寄納	「習志野測量図」	下総	1	

内容区分	内容細目	地図名称	項目	点数
	岩橋教章漢国ニテ製ス	「洋版日本図」	北海道	1
	故内務属高橋不二雄著	「改正北海道全国」	北海道	1
	横田正綱置	「安喜郡海岸測量図」	土佐	1
	鈴木直紀置	「日本国内肥前之分替入」	肥前	1
	中邨元起納本	「木曾山図」	信濃	1
	安岡百樹献本	「淡路国全国」	淡路	1
	目賀田守蔭納本	「北海道地図」	北海道	1
	原本宗外務大函蔵借模	「対馬国図」	対馬	1
	局長下附	「東大寺図」	大和	1
その他	受付ヨリ至ル	「横須賀大津村海軍提督府建設場之図」	相模	1
	旧藩製	「松代藩府内四郡測量縮図」	信濃	1
	蠟引布写	「阿波四郡之図」(阿波)ほか	阿波・北海道・内地総国之部	4
	模写	「摂河两国井路川筋」	川路	1

注(1): 表の順番は関係機関や個人などを適宜並べたものである。他部局については地誌課以外の部局を五十音順に掲載した。
注(2): 「武蔵国全国」ほか、地理局地誌課編製図については各項目に記載されているもののみを掲載した。

表4-3 地図収集過程表(府県より差出)

府県名	地図名称	項目	点数
石川県	「越前市街図」(越前)ほか	越前・加賀・越中	3
岩手県	「岩手県管内全国」ほか	陸中	6
大阪府(M9.3)	「大阪府管轄摂津七郡測量図」	摂津	1
岡山県	「津山市街図」(美作)ほか	美作・備前・備中	3
神奈川県	「横浜港全国」ほか	武蔵	2
岐阜県	「美濃国市街図」(美濃)ほか	美濃・飛騨	2
京都府(M6.8.10)	「松平乗命図」		
京都府	「宮津実測図」(丹後)ほか	丹後・薩摩	4
熊本県(本課製)	「肥後飽田託麻玉名草北山本山鹿菊地合志阿蘇郡測量分見図」	肥後	1
高知県	「土佐全国図」	土佐	1
札幌県(回送、M16.1)	「札幌県管下国郡界図」	北海道	1
飾磨県	「播磨興地全国」	播磨	1
静岡県	「遠江国全国図」(遠江)ほか	遠江・駿河	3
同(借用謄写、M7.5)	「三河国図」	三河	1
鳥根県	「隠岐国暗礁測量図」	隠岐	1
千葉県	「千葉県市坊図」ほか	下総	2
同(M10.2.19)	「安房国館山北條村図」(安房)ほか	安房・上総・下総	3
敦賀県	「越前国絵図」	越前	1
東京府(調模写)	「東京市街全国」	武蔵	1
長崎県	「佐賀縮図」	肥前	1
長野県	「信濃城市図」ほか	信濃	2
奈良県	「大和国全国」(奈良県下市街之図)	大和	2
新潟県	「蒲原郡新潟町図」ほか	越後	2
新川県	「越中全図」	越中	1
浜松県	「遠江国全国」	遠江	1
広島県	「深津郡福山市街図」(備後)ほか	備後・安芸	3
福岡県	「宰府市坊図」(筑前)ほか	筑前・豊前	6
福井県(所進、M15.1)	「越前国敦賀市街全国」	越前	1
福島県	「岩代名邑市街図」	岩代	1
丸亀県	「讃岐図」	讃岐	1
宮城県	「旧仙台市坊図」	陸前	1
山梨県	「山梨県下甲府市街測量図」	甲斐	1
渡会県(3月12日)	「上野市街図」	伊賀	1
同(M8.11.24)	「渡会県管轄全図」	伊勢	1
同(M10.3.12)	「伊勢市街図」(伊勢)ほか	伊勢・志摩	2
「御巡幸之節」差出 府県名	地図名称	項目	点数
青森県	「陸奥国略図」ほか	陸奥	2
秋田県(県官調進)	「秋田県管轄羽後陸中全図」	羽後	1
岩手県	「岩手県管内図」	陸中	1
埼玉県	「埼玉県管内略図」	武蔵	1
栃木県	「栃木県管内全図」	下野	1
北海道	「函館図」	北海道	1
宮城県	「宮城県下図」	陸前	1

注(1): 掲載の順番は府県名五十音順とした。

五五点、および「森幸安図」「松平乗命図」「正保度調皇国絵図」がある。

○の付された地図すなわち内閣主管の地図のみを書上げた目録が明治二三年(一八九〇)一月の「内閣引継図目」(目録²²)である。目録巻頭に「ノ分ハイマタ内閣江置ク不属分 ○ハ図書課ヨリ既ニ内閣江送致済」とあるほか「引継ハ大概明治已前ヲ以テ目的トス」とある。なお明治二三年一月二四日から七月一〇日までの図書の往復簿「内閣引継図書往復簿」にも、「内閣江引継ヘキ図書ハ大抵明治維新已前ノ編輯ニ係ルモノヲ目的トナスヘキ旨、図書課鈴木安襄申聞ニ付、曾テ図書課ノ記号スミノ中ヲ撰ミ引継ク、後照ノ為ニ記ス」とある。内閣文庫へ引継ぐべき図書は、明治維新以前の編輯に係るものである、と図書課の鈴木安襄が言ったため、かつて図書課が記号をつけたものの中からを選んで内閣文庫へ引き継いだ、とする。明治維新の前後によって図書を分け、内閣文庫が引き継ぐ図書(地図を含む)は明治維新以前のもの、内務省図書局では明治維新以後のものを引継ぎ主管したのである。

この時点で地誌編纂に関わる資料、このうち関係地図について、内閣文庫主管の地図と内務省主管の地図に分かれることとなった。内閣文庫主管の地図については新たに内閣文庫の番号が付された。表3に示したように、目録²²では各地図に内務省図書の番号が付されているのに対し、帝国大学移管後の目録²⁵では変更後の番号が付されている。先述した「山城州大絵図」は、内務省図書番号「一一四六一」であったが、内閣文庫番号「二二七六四」と変更されている。地図自体にも「内閣文庫」のラベルが貼られ、「二二七六四」と記載されている。これに対し内閣文庫へ移管されなかった地図、同じ「山城」の項にある「京都市中実測図」などは、同時期の明治二四年(一八九一)二月以降に作成されたと考えられる目録「史料編纂掛所蔵地図目録」(目録²⁴)でも番号は変更されていない。

以上のことから、内閣文庫へ主管換えとなった後、明治二三年一月から明治二四年四月の間に、図書の番号が変更されたものと考えられる。なお関係記載として目録²⁵中に、「地誌備用書目 引継完済」とある部分があり、「内閣引継未済図書課記号 廿三年七月十日図書局へ回ス、図書局ヨリ付合ノ為メ内閣へ回ス」とあるほか、「山城州大絵図」ほか内閣文庫の番号が付された五一点の地図記載の末尾に「以上五十一枚十一月廿七日記号入」とある。これらの時期に新たな番号が付されていたと考えられる。

但し、主管が変更になった後でも、地理局が作成した地図目録には、引き続きこれらの地図が記載されると共に、新たに付された内閣文庫の番号も記載された。図書局主管の資料を地理局で借用していたのと同様、実際には地誌編纂事務を行っていた内務省地理局で引き続き関係地図を保管し、内閣文庫から「借用」する形となっていた。

(3) 帝国大学地誌編纂掛移管以降

明治二三年九月五日、地誌編纂事業は帝国大学に移管し、一〇月二日に帝国大学地誌編纂掛が設置された。府県より既に進達されていた稿本や関係資料類は帝国大学図書館に移管され、これらは「郡村誌」とも呼ばれる、六四〇〇冊の膨大なものであったという³²。これに伴い内務省地理局地誌課備用地図も帝国大学に譲渡された。なお関係資料は大学図書館のみではなく、地誌編纂掛が保管していたものもあったようで、これらが現在、史料編纂所「内務省引継地図」などに含まれたものと考えられる。地誌編纂関係資料の移管はそれぞれの資料の主管や保管が異なるという事情から一括して行われたわけではなく、内務省あるいは内閣文庫など、資料群ごと別個に行われている。地図については①図書局から移管されたもの、②地理局地誌課から移管されたものおよび地理局地誌

課から移管されたが、もともと内閣文庫の主管であつたために内閣へ返却するものに分けられる。

①内務省図書局からの地図譲渡

図書局からの地図譲渡については、目録⁽²³⁾「内務省地理元地誌課備付地図譲渡に付」によつてその経緯がわかる。これは明治二三年一月二月八日付から翌二四年二月九日までの書簡控および地図目録を綴じたものである。明治二三年一月一日付「帝国大学坤第七五九号」として物品会計官吏内務省会計局次長藤澤親之より帝国大学総長文学博士加藤弘之宛の書簡では、帝国大学へ地誌編纂事務が転換となつたため、旧地誌課の地図の引継を地誌課に要求している。しかし地理局の回答は次のような内容であつた。

「地第五一一号

地誌編纂事務用地図引継之件ニ付、御照会相成候処、右ハ既ニ図書局へ返完致シ、現今本局ニ於テ關係不致候間、更ニ同局へ御照会相成候様致度、依之別紙図目返上、此段及御回答候也

明治廿三年十二月廿四日

地理局長 梶山鼎介□

帝国大学総長文学博士 加藤弘之殿

目録にある地図はすでに図書局へ返完し、地理局では関係していないので、図書局へ照会してほしいとして、図目も返上するとある。また照会用の地図目録として二二二部の地図が記載された目録が付されている。二二二部は表3で「京都市中実測図」など内務省図書番号が付されたものの一部である。帝国大学ではこれらの地図を未だ地理局の主管と考えていたが、地理局地誌課では関係資料をすでに図書局へ返却していたようである。

その後、明治二四年二月九日付「坤第五号」で、目録の地図は無代価で譲渡するという内務省会計局よりの書簡があり、地図は内務省図書局

から帝国大学へ譲渡されたと見られる。目録⁽²³⁾とほぼ同じ内容の地図が記載された、帝国大学の用箋を使用した目録⁽²⁴⁾「史料編纂掛所蔵地図目録」⁽³³⁾の存在がこれを示しており、明治二四年二月九日以降、引き継いだ地図を史料編纂掛が新たに目録化したと考えられる⁽³⁴⁾。

②内務省地理局地誌課からの地図譲渡と内閣文庫主管地図の返却

明治二四年三月三十一日、地誌編纂掛は、明治二一年一月に設置された臨時編年史編纂掛と合併し、帝国大学文科大学史誌編纂掛となつた。この明治二四年四月に作成された目録に、前掲目録⁽²⁵⁾⁽²⁶⁾⁽²⁷⁾がある⁽³⁵⁾。史誌編纂掛となつた際に引継圖書を書き上げる目的で作成されたものである。「地誌編纂掛引継図書目録」の本紙一枚目には「地誌備用書目」「引継完済」とある。

また目録⁽²⁵⁾は「内閣記号図目」として内閣文庫主管の地図を書き上げている。明治二四年一月「旧地誌課本色葉目録」の巻頭には「此目録ニ載スル所ノ図書ハ、旧地誌課ニ於テ謄写又ハ購買シタルモノ或ハ各府県ノ府県史編纂ヨリ引継キタルモノ等ナリ、但一部分ハ内閣文庫ノ主管タリ、明治二十三年地誌編輯ヲ帝国大学ニ移サレシトキ内閣文庫主管ノモノハ常借トシテ内閣記録課ヨリ借用セシモノニ係ル、他ハ皆史料編纂掛ノ主管トス」とある。地誌編纂事業が帝国大学地誌編纂掛に移管した際、地理局地誌課において所蔵していた圖書をそのまま引き継いだ。しかしその一部分はもともと内閣文庫の主管であり、これを「常借」として内閣記録課より借用していた。この記載にもあるように、明治二四年一月二月の段階では「常借」の分は未だ借用したままであつた⁽³⁶⁾。

「内閣記号地図目録」(目録⁽²⁸⁾)は、借用していた内閣文庫主管の地図それぞれの返却日を書き上げた目録である。巻頭には「明治二十四年四月地誌編纂掛引継の分(内閣へ返却済)」とある。明治二八年(一八九五)一〇月から明治四一年(一九〇八)一〇月までの記載があり、こ

の間、返却した地図は二〇一点、例えば「山城州大絵図」は「明治三七年一〇月五日返」と具体的な返却年月日が記載され、各地図は順次、内閣へ返却された。ほかに「返附之分 三十七年八月十三日以前分」とある三三点が別記され、これを含めると全三三四点の地図を内閣文庫に返却している⁽³⁸⁾。これらの地図は返却後、内閣文庫の図書として現在、国立公文書館の旧内閣文庫に保管されている⁽³⁹⁾。

内閣への返却が行われる中、明治二六年（一八九三）四月一〇日、史誌編纂掛が廃止され、地誌編纂事務すなわち「皇国地誌」編纂事業は停止する。地誌編纂事業と共に収集してきた地誌や地図など、既に進達された稿本や関係資料類で、東京帝国大学図書館に保存されていたものについては、大正二二年（一九三三）九月の関東大震災により焼失してしま⁽⁴⁰⁾う。しかしその一部は史料編纂所へ貸出中であつたため災難から逃れているほか、本稿で述べたように別個に移管されたものについては、現在も史料編纂所や国立公文書館を中心に現存している。

以上、地図主管の変遷とそれに伴う地図目録の内容を整理した。地理局内には「内務省図書」となっていた図書局主管地図のほか、地理局の主管地図が存在していた。その後内閣制度の成立に伴い、図書局主管の地図のうちの一部が内閣主管の地図となり、内務省図書として付されていた番号は内閣文庫図書の番号に変更となる。しかし変更となった後も、地図自体は実際に地誌編纂事務を行っていた地理局に保管されていた。地誌編纂事業が帝国大学へ移管されると、地理局主管の地誌や地図、図書局主管の地図も順次、移管された。地誌課から引継いだ地図、このうち図書局主管のうち内閣文庫からの借用の形をとっていた地図については、明治二八年以降、順次返却されていった。

四 収集地図の現況

（一）東京大学史料編纂所所蔵地図

①帝国大学文科史料編纂掛期の地図目録

図1に示したように、明治二四年（一八九二）四月の帝国大学への編纂資料引継の際に、地誌全体の目録⁽²⁵⁾⁽²⁶⁾が作成されたが、帝国大学史料編纂掛には修史局および臨時編年史編纂掛から引き継いだ地図も同時に蓄積していたため、これらを合わせて目録⁽²⁹⁾が作成されている。この目録によって、旧地誌課および旧修史館から引き継いだ当時の地図が把握できる（但し内閣文庫への返却分についても返却前のため、記載はあ⁽³⁰⁾る）。

続いて明治二八年（一九九五）四月、帝国大学文科史料編纂掛になつてからの地図目録に、「史料編纂掛所蔵地図目録」（目録⁽³⁰⁾）がある。本目録は史料編纂掛段階で所蔵している地図を、新たに分類しなおしたものと考えられ、「第一函」～「第六函」および「別第一函」～「別第三函」に分類している⁽⁴¹⁾。また、この目録の掲載地図を五十音順に掲載したものが、「史料編纂掛所蔵地図目録」（目録⁽³¹⁾）である。

②東京大学史料編纂所以降の地図目録

昭和二五年（一九五〇）四月、東京大学史料編纂所となつてからの地図目録に目録⁽³³⁾「史料編纂所所蔵地図目録」がある。表紙には「昭和二十八年現在」と書かれており、地図には番号「六四〇／一」とある「江戸道中絵図」から「六四七／三〇」とある「京都府管内略図」までが番号順に記載される。これらの番号は史料編纂所「内務省引継地図」のうちでも多くの図に鉛筆書きなどで見られる⁽⁴²⁾。目録では各地図毎に「イ」「ロ」「A」の記号が付される。「イ」は現在「内務省引継地図」のうちの一三三二点の地図、「ロ」は「架番号変更」として朱線で抹消した、版

本を中心とする二六〇点の地図で、史料編纂所内で既に個別に配架されている地図である。「ロ」の地図には「内務省引継地図」の地図で多く見られる地理局地誌課の蔵書印「地誌備用図籍之記」の印が見られる地図が散見する。目録(33)の作成後に地図を版本とそうでないものとに区別し、架番号を変更し目録では抹消しているものであろう。⁽⁴³⁾

なお目録(33)には、目録(29)で既に掲載されていた「修史局」の印が捺されている地図など修史局および修史館から伝わった地図も含まれている。多数の伝来系統を持つ地図群が「はじめに」で触れた「内務省引継地図」の第一群で、大きく分けて、地誌課系統、修史館系統、陸軍文庫系統の地図が含まれている。

(2) 国立公文書館旧内閣文庫所蔵地図

内務省図書局主管から内閣文庫主管となった地図のうち、内務省地理局地誌課の「常借」となっていた地図は、明治二八年から四一年(一九〇八)に返却され、現在、国立公文書館旧内閣文庫で所蔵されていることが確認できる(表3)。先述したようにこれらの地図の中には現在でも、内務省図書局主管期における「内務省図書」のラベルが貼られており、「甲一一四六一」などの番号も確認できるほか、内閣文庫主管となった際の「内閣文庫」のラベルおよび変更後の番号も確認できる。さらに史料編纂所「内務省引継地図」の諸図に捺されていた所蔵印⁽⁴⁵⁾と同じ印も確認できる。太政官正院地誌課期に使用されていた「正院地誌課図籍之記」、内務省地理寮地誌課期に使用されていた「地理寮地誌課図籍之記」、また地理局地誌課の「地誌備用図籍之記」⁽⁴⁶⁾や図書局の「図書局文庫」⁽⁴⁷⁾なども多く見られるほか、「京都府図書印」⁽⁴⁸⁾、「福島県蔵版印」など府県関係の印も見られる。

おわりに

以上、本稿では現在東京大学史料編纂所で所蔵されている複数の地図目録、特に明治初期からの地誌編纂事業に関わる地図目録を中心として、その記載内容を整理し、目録相互の関係を明らかにした。図1の地図目録相関図によって、各目録は独自に存在するものではなく相互に関係する目録として把握できることが明らかとなった。また地図目録の記載内容から、地誌編纂事業における地図の収集過程、地誌編纂事業の移管に伴う資料の主管移動について整理し、それぞれの資料が現在、主としてどこに所蔵されているのかを明らかにしたものである。

太政官正院地誌課に始まった、国家事業としての皇国地誌編纂の過程において、各担当部局では地誌と共に多数の地図を収集していった。その際、各地図に番号を付け、目録化の段階において「山城」「大和」などの各州別、また「総国支部」「沿海支部」などの形で分類し把握していったことがわかる。地図のみの目録が作成されたこと、また帝国大学移管に際しての地図譲渡において、地図資料のみを一群で移管するなど、もともとは皇国地誌編纂という目的によって始まった地図収集の中で、地図群を一つの資料群として把握しようとする意図も読み取れる。

しかし、地図資料を一括把握するという方向は、資料群を伝来によってではなく、形態で把握することとなり、帝国大学史料編纂掛期に地誌課系統の地図と修史館系統の地図を一括して目録に記載していたことなどからもわかるように、現在では全体としての資料の伝来が不明なものとなっていることに注意したい。

本稿では地誌編纂資料の中心ともいえる地誌についてはほとんど触れなかったが、地誌の収集や編纂に関する検討、その際の府県との関わりなど、関係史料の検討によって、地誌編纂事業の過程をさらに明らかに

することを今後の課題としたい。

【注】

- (1) 「内務省引継地図」の概要については、杉本史子「東京大学史料編纂所所蔵『内務省引継地図』とその公開について」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』第六号、一九九九年)、および地図に捺された所蔵印と関係機関については、拙稿「内務省引継地図」における印と地図史料の収集・整理」(『東京大学史料編纂所研究紀要』第一〇号、二〇〇〇年)。また皇国地誌編纂事業については、永峰光名「郡村誌復興」(『図書館雑誌』第三五年第一号、一九四一年)、石田龍次郎「皇国地誌の編纂―その経緯と思想―」(『橋大学一橋学会編』「社会学研究」8、一九六六年)など。
 - (2) 太政官達布告二八八号(内閣官報局編『法令全書』博聞社、一八八九年、明治五年九月二四日)。
 - (3) 太政官達布告二九〇号(内閣官報局編『法令全書』博聞社、一八八九年、明治五年九月二五日)。
 - (4) 太政官達布告一四九号(内閣官報局編『法令全書』博聞社、一八八九年、明治六年五月八日)。
 - (5) 太政官達第九七号(別冊)(内閣官報局編『法令全書』博聞社、一八八九年、明治八年六月五日)。
 - (6) 太政官達第一九六号(内閣官報局編『法令全書』博聞社、一八八九年、明治八年一月二日)。
 - (7) なおこれより先、明治十一年一月三十一日には、正院歴史課の蔵書のうち一五点が地理局地誌課に引き継がれている(『歴史課蔵書目録』、地図は「大日本全図」「実測日本地図」「亜細亜東部輿地図」「万国地図独逸版」「英版日本各州図」「万国全図洋製」「富士見十三州輿地之全図」の七点でそれぞれに明治九年一〇年の買上日の記載がある)。
 - (8) 明治六年のウィーン万国博覧会に出品するため、太政官正院地誌課において明治六年三月に一旦完成した後、稿本を各府県に下して改訂を命
- じ、明治七年一二月に刊行。内務省地理寮の塚本明毅が監修(福井保内務省地理局の編集・刊行物解題)(『日本書誌学大系12』内閣文庫書誌の研究、青裳堂書店、一九八〇年、五四五頁)。
 - (9) 国立公文書館旧内閣文庫所蔵「日本輿地図」二三二鋪(請求番号一七七一〇〇一)。
 - (10) 福井保「内閣文庫所蔵の国絵図について(続)」(『日本書誌学大系12』内閣文庫書誌の研究)、青裳堂書店、一九八〇年、四〇九頁)、および国立公文書館編「内閣文庫百年史」(一九八五年、八七頁)。
 - (11) 国立公文書館旧内閣文庫所蔵「日本分国絵図」二二七鋪(請求番号一七六一〇二八二)。
 - (12) 前掲(10)に同、福井保「内閣文庫所蔵の国絵図について(続)」(『日本書誌学大系12』内閣文庫書誌の研究)、青裳堂書店、一九八〇年、三九八頁)、および国立公文書館編「内閣文庫百年史」(一九八五年、八九頁)。
 - (13) 「山城州大絵図」は現在、国立公文書館で所蔵(請求番号一七七〇二七六)。
 - (14) 目録(5)の追記部分の筆跡は異なっている。
 - (15) なお、各海道にあたる図は「内地絵図国部」などで重複記載している地図が多い。
 - (16) 地理局地誌課の編纂物については山口静子「郡村誌」と『大日本国誌』―明治政府の地誌編纂事業―(『東京大学史料編纂所所報』第一二二号、一九七七年)、福井保「内務省地理局の編集・刊行物解題」(国立公文書館報「北の丸」第九号、一九七七年のち福井保氏前掲注(10)「内閣文庫書誌の研究」に再録、地図については同書五五二頁)。
 - また、地理局地誌課編集の刊行物目録として「地理局編集誌図総目稿」がある。
 - (17) 「伊能大図」とほぼ同じ内容が記載された目録が(34)(35)である。
 - (18) 地誌課が所蔵していた伊能図は、明治六年の皇居火災の際焼失したとされる最終上呈版の副本で、伊能家より献納されたものであったことが、河田熊「本邦地図考―大日本実測図・同実測録―」(『史学雑誌』六一七、一八九五年)にも記載されている。

- (19) 幕臣の中川忠英旧蔵の国絵図で現在「日本分国図」として一括されている(架番号一七六一〇二八六)。前掲森幸安図と同様、明治三年二月に内閣文庫に移管された。
- (20) この部分に関係する目録が「肥前国地図残闕」(目録36)で、郡郷村毎に図の点数を書上げている。
- (21) 「海軍水路局出版 英版海図目録 水路局調製海図目録」(目録37)は、この二項目と同じ内容が記載された目録である。
- (22) これら別個に移管された地図の目録が、目録23である(後述するように移管後とみられる目録の存在により、表では「帝国大学へ」とした)。
- (23) この時期の地図収集過程を示した史料として「領収書目」(目録12)がある。明治一八年六月から明治二二年(一八八八)六月付までの記載が見られ、地誌史料も含めた各図書が地誌課へ到った年月日を記載したものである。
- (24) 榊綽の模写図として、「内務省引継地図」のうち「武蔵秩父郡之図」(請求番号〇〇三七)、「愛知縣管下尾張三河図」(請求番号〇二五四)など一四地点の地図に「榊」の丸朱印が押されている。
- (25) 渡辺佳子「明治期中央行政機関における文書管理制度の成立」(安藤正人・青山英幸編著「記録史料の管理と文書館」、北海道大学図書刊行会、一九九六年)。
- (26) 内務省図書局所蔵の図書目録に、明治一六年(一八八三)七月刊行「図書目録」がある。「納本之部」に掲載された地図類は約五〇〇点に及び、この中には地理局作成の目録中で「図書ヨリ預り」などある地図についても掲載されている。
- (27) なお史料編纂所の「内務省引継地図」には内務省図書のラベルはない。内務省図書の番号が付された地図はほとんどが内閣文庫主管のもので、史料編纂所には目録中にある無番号の地図が多く引き継がれたためと考えられる。
- (28) この印は図書局や地理局所管以外のものに見られる印という(国立公文書館内閣文庫編「内閣文庫蔵書印譜」(一九九九年)、一八八―一二九頁)が、地誌課作成の目録中で現存が確認できる地図には多く見られる印である。
- (29) これより後、明治三年(一八九〇)六月に再び図書局となるも、翌二四年(一八九一)八月一六日には、地理局、会計局と合併し庶務局となった。
- (30) 国立公文書館編「内閣文庫百年史」(一九八五年)。
- (31) 内閣記録局図書課は、明治一八年二月二四日に記録課と共に置かれた。
- (32) 和田万吉「東京帝国大学附属図書館の罹災に就いて」(「図書館雑誌」第五四号、一九三三年、のち「中央史壇」第九卷三号、一九二四年、に再録)。
- (33) 地図には全て内務省図書番号がある。
- (34) 目録24に記載された地図はほとんどが「東京帝国大学附属図書館和漢書書名目録増加第一」に掲載されている。目録24は帝国大学の野紙を使用していることから、史料編纂掛へ引継ぎが行われたとも考えられるが、関東大震災で焼失したものと考えられる。
- (35) 「地誌編纂掛引継図書目録」とあるように、地図は勿論、地誌関係資料を引き継いだものであるが、欠番があるため、この外にも目録は存在していたものと考えられる。
- (36) なお「此目録二載スル所ノ図書ハ明治三十八年出版ノ史料編纂掛備用図書目録ニハ地ノ一字ヲ書シテ符号トナス、図書出納ノ時亦同ジ」とあり、「史料編纂掛備用図書目録」(一九〇五年刊行)に「地」として図書が掲載されている。
- (37) 目録は「内閣記号図目 地図之部」とあることから、同様に「地誌之部」もあったと考えられる。
- (38) なお、「大日本輿地実測大図」「同中図」「同小図」「同江戸実測図」の四点は、明治四一年一〇月二日付で帝国大学図書館へ移管されている旨の記載がある。
- (39) 前掲表3を参照。
- (40) 焼失した地図については、蔵田伊人の報告および地図目録(目録32)がある。目録の内容については「焼失せる東大附属図書館所蔵貴重書

(一般史学関係)〔史学雑誌〕三五―一、一九二四年)に蘆田氏の報告が採録されている。なお、目録②には「季隆写諸国図」とされた地図群があるが、これは目録①の「富岡佐々木献納図」に該当する。

(41) 「別第三函」のうちにある「吉野山勝景」は、目録②によると明治二八年(一八九五)一〇月一日に返却されており、目録②は明治二八年四月一〇月一日の間に作成された目録であろう。

(42) 前掲注(1) 拙稿(一一三頁)①『旧番号』について)。

(43) なお「A」とある三二点の地図についての分類は不明である。

(44) 国立公文書館ホームページの「内閣文庫データベース」では、「旧蔵者」の項に「太政官正院地志課・地理寮地誌課・内務省地理局」と入力されている地図もある。

(45) 前掲注(1) 拙稿。内閣文庫所蔵史料中にある蔵書印については、前掲注(28)の国立公文書館内閣文庫編『内閣文庫蔵書印譜』(一九六九年)に掲載されている。

(46) この地理局地誌課の所蔵印を持つ地図が明治大学図書館蘆田文庫古地図コレクションにも数点見られる。

(47) 国立公文書館所蔵「九州二島図」(請求番号一七七〇四一七)など。

この図には「正院地志課図籍之記」、「日本政府図書」(明治一九年二月に内閣文庫設置時に篆刻家中井敬所に命じ新彫された印)の印が捺される。

(48) 国立公文書館所蔵「磐城岩代両国全図」(請求番号一七七〇八〇八)など。「地誌備用図籍之記」「日本政府図書」も共に捺される。

〔付記〕 本稿執筆にあたり、杉本史子氏、横山伊徳氏に御教示をいただいた。
ここに感謝の意を表したい。